

2021 履修ガイド

生活科学科
文科

この「履修ガイド」は、入学から卒業までの履修についての規定や卒業要件など学修を進めていくうえで指針となるべき事項を集約したものです。

履修計画や諸手続きについては、オリエンテーションで詳しく説明しますが、「履修ガイド」を機会あるごとに参照し、十分に活用してください。わからないことがある場合には、アカデミックアドバイザーに指導を受けたり、教務課に相談してください。

「履修ガイド」は入学時にのみ配付します。卒業するまで紛失しないようにしてください。

紛失した場合は、再配付しません。また、内容の一部が変更される場合にはオリエンテーション時の説明、追補録の配付または kyonet でお知らせいたします。

なお、各年度の授業内容については、kyonet 上の共立シラバスで確認してください。

2021履修ガイド

(生活科学科・文科)

I
履修要項

生活科学科

文科

短
期
大
学
開
放
期
目
録

II
全
学
科
共
通

III
伝
達
他

共立女子短期大学

目次

本学のおゆみ	4
本学の組織	6

I. 履修要項

■生活科学科

1. 学科の概要	7
2. カリキュラムの全体像	8
3. 教養教育科目	9
4. 専門教育科目	16
5. 卒業の要件	19
6. 教育課程（カリキュラム）および履修方法	20
7. チャレンジ・ゼミナール	25
8. 卒業ゼミナール	25
9. 卒業研究・卒業制作	25
10. インターンシップ制度について	25
11. 諸資格	
・フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト	26
・食品衛生責任者	27
★ 共立女子短期大学生生活科学科 3つのポリシー	28

■文科

1. 学科の概要	30
2. 教養教育科目	32
3. 専門教育科目	39
4. 卒業の要件	39
5. 教育課程（カリキュラム）および履修方法	40
★ 共立女子短期大学文科 3つのポリシー	47
■短期大学開放科目	48

II. 全学科に共通する事項

1. 学籍について	50
2. 学生証	50
3. 学籍異動（休学・復学・退学・除籍・再入学・ 転学部・転学科・転専攻）	51
4. 学費	51
5. 単位および授業期間	53
6. 授業	54
7. 履修登録	57
8. 既修得単位の認定	59
9. 試験	60
10. 進級	64
11. 海外留学・研修	65
12. 全学共通副専攻制度	67
13. 科目等履修	68
14. 編入学	68
15. 履修に関するQ&A	69
III. 伝達 他	71

本学のあゆみ

本学の歴史は、女子教育が黎明期を迎えたばかりの明治 19 年に「女子の社会的地位を高めるには、専門の職業を身につけ、自活の能力を得させなければならない」と、宮川保全、鳩山春子ら女子教育の先覚者 34 名が、共同で「共立女子職業学校」を創立した時にさかのぼる。「共立」という校名は、この共同の設立に由来する。

そこでは、専門の職業活動に必要な学術技能を教育することが中心となったが、同時に、女子が自立するために必要な教養を習得させることがめざされたのである。したがって、本学建学の精神は、女性の社会的地位向上のための、自活の能力の習得と自立した女性として必要な教養の習得であったといえる。やがてこの建学の精神から「誠実・勤勉・友愛」の三つの徳目が生まれ育ち、本学の伝統的精神のよりどころとなった。昭和 3 年、「共立女子専門学校」が設立されたが、そこでもこの建学の精神は受け継がれ、社会に多大な貢献をした。

第二次世界大戦の激動期を経て、日本は世界の平和と人類の福祉のため、文化国家建設に全力を注ぐことになった。教育面では学制改革が行なわれ、それを機に、本学においては、昭和 24 年、家庭生活についての実際的な専門的知識と社会人としての広い視野とをもつ人間の育成をめざして、「共立女子大学家政学部」を発足させた。さらに昭和 28 年には、文学と芸術の世界を広く深く理解できる人間の育成をめざして、大学に「文芸学部」を開設した。平成 2 年には、日本社会の国際化に対応し、豊かな国際感覚をもち、国際化した社会で積極的に活躍できる人間の育成をめざして、「国際文化学部」を八王子キャンパスに開設。平成 19 年度からは、家政学部に新たに「児童学科」を開設し「生活美術学科」を「建築・デザイン学科」とし、文芸学部は従来の文学と芸術を学ぶ特徴を生かしながらメディアという視点から「文芸学部文芸学科」を、国際文化学部は社会科学系の科目を充実させて「国際学部」として再編した。平成 25 年度には、短期大学看護学科の教育実績を踏まえ、「看護学部」を開設した。令和 2 年度には、都心のキャンパスを舞台に、あらゆるフィールドでリーダーシップを発揮できる女性の育成を目指し大学に「ビジネス学部」を開設した。

また短期大学は、昭和 25 年に「共立女子大学短期大学部家政科」を設置したことに始まり、昭和 28 年には実務的・実地的知識と教養とを身につけた人間の育成をめざして、短期大学部に「文科第一部」「文科第二部」を開設した。昭和 48 年、「共立女子大学短期大学部」は「共立女子短期大学」と改称され、短期大学としてのまとまりある教育・研究体制が整えられ、平成 16 年度の「看護学科」の開設、平成 19 年度の「文科第二部」の募集停止および「文科第一部」の「文科」への改称、大学看護学部の開設に伴う「看護学科」の廃止を経て、現在は「生活科学科」「文科」の 2 学科体制となっている。

大学院は、昭和 41 年に「文芸学研究科」（修士課程）を、55 年に「家政学研究科」（修士課程）を、さらに平成 6 年に「比較文化研究科」（修士課程）を設置し、また同年には「家政学研究科」に博士後期課程として「人間生活学専攻」を設置した。平成 23 年からは、家政学研究科（博士前期課程）に「建築・デザイン専攻」と「児童学専攻」を新たに設置し、「比較文化研究科」を募集停止し「国際学研究科」を設置した。平成 27 年には、「文芸学研究科」において、「日本文学専攻」「英文学専攻」「演劇学専攻」の学生募集を停止して新たに「文芸学専攻」を設置した。さらに、平成 29 年に「看護学研究科」（修士課程）を設置した。これら大学院は、高度の学術研究・教育機関として、ますます充実することを目指している。

本学では、昭和 54 年に都心に位置する神田一ツ橋キャンパスから、さらなる教育環境の充実を図るため、八王子に新キャンパスを設けた。八王子キャンパスは、長年にわたって本学の教育拠点のひとつであったが、かねてより大学・短期大学将来構想委員会では、教育機能の一層の充実をめざして、神田一ツ橋キャンパスを中心とした集中型教育の導入を検討、教育内容および教育方法の改革を含めた環境整備を行い、平成 18 年度より神田一ツ橋キャンパスへの集中化の実施に取り組み、平成 19 年度より大学・短期大学の授業が神田一ツ橋キャンパスで実施されることにより、学部・学科の枠を超え、教養教育の全学共通化を実現することとなった。

いまや我々をとりまく社会の高度技術化、国際化、情報化等の進歩はめざましいものがあり、卒業生には社会の各分野で主導的・積極的に活躍する場が開かれている。

社会の求める高度な能力とともに、本学の建学の精神にもとづいた、豊かな人間性を備え、確かな価値観を身に付けた女性を世に送り出すことが本学のめざす目標であり、本学の教育の方針である。

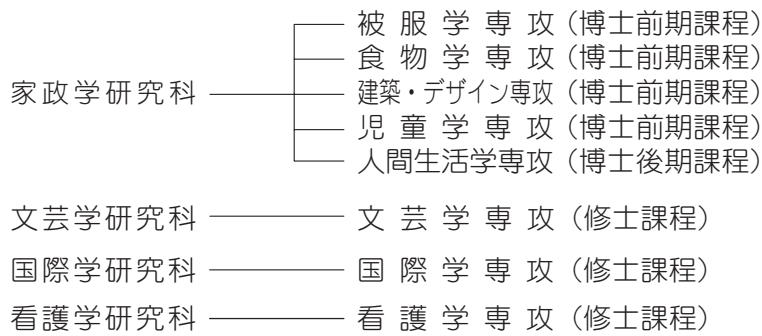
年 月 日	事 項
明治19. 3.22	共立女子職業学校創立
大正14. 4. 1	共立女子職業学校専門学部設置
昭和 3.10. 1	共立女子専門学校設立
昭和25. 4. 1	共立女子大学短期大学部家政科設置
昭和26. 4. 1	被服別科設置
昭和28. 4. 1	文科第一部・第二部国語専攻、英語専攻設置
昭和35. 4. 1	定員変更 家政科（100名→200名） 文科第一部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名）
昭和40. 4. 1	被服別科を別科（被服専修）と改称
昭和48. 4. 1	短期大学部を共立女子短期大学に名称変更
昭和53. 4. 1	定員変更 文科第二部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名）
昭和59. 4. 1	別科（被服専修）を別科（家政専修）と改称
平成元 . 4. 1	家政科を生活科学科と改称
平成 2. 4. 1	別科（家政専修）を別科（生活科学専修）と改称
平成 3. 4. 1	臨時定員増 生活科学科（200名→280名） 文科第一部国語専攻（100名→150名） 英語専攻（100名→150名） 文科第二部国語専攻（100名→170名） 英語専攻（100名→170名）
平成 6. 4. 1	文科第一部・第二部国語専攻を日本語・日本文学専攻、英語専攻を英語・英米文学専攻と改称
平成12. 4. 1	定員変更 生活科学科（200名→240名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（100名→125名） 文科第一部英語・英米文学専攻（100名→125名） 文科第二部日本語・日本文学専攻（170名→100名） 文科第二部英語・英米文学専攻（170名→100名）
平成16. 4. 1	共立女子短期大学看護学科設置 定員変更 生活科学科（240名→170名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（125名→80名） 文科第一部英語・英米文学専攻（125名→90名）
平成18. 3.31	別科（生活科学専修）を廃止
平成19. 4. 1	文科第二部の募集を停止 文科第一部日本語・日本文学専攻及び英語・英米文学専攻を文科（170名）と改称
平成20. 3.31	文科第二部を廃止
平成25. 4. 1	看護学科の募集を停止
平成27. 4. 1	定員変更 生活科学科（170名→100名） 文科（170名→100名）
平成28. 3.31	看護学科を廃止

共立女子短期大学の人材養成目的

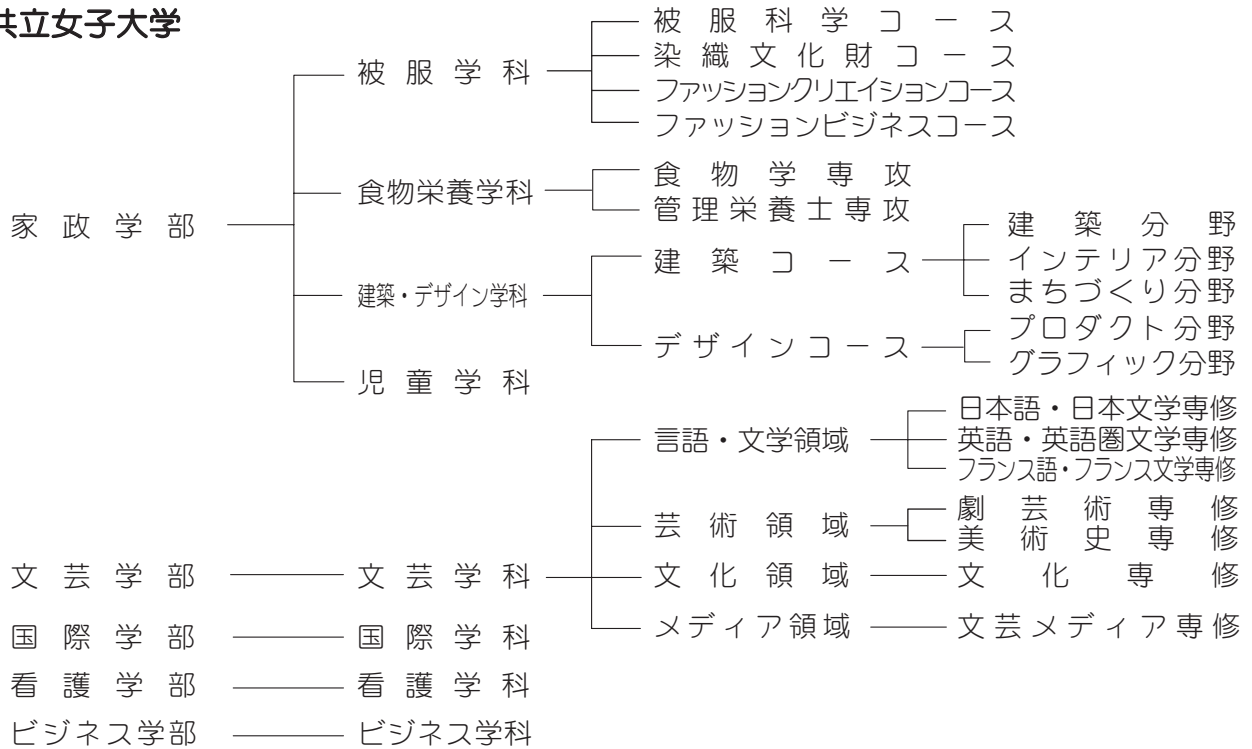
本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または實際生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

本学の組織

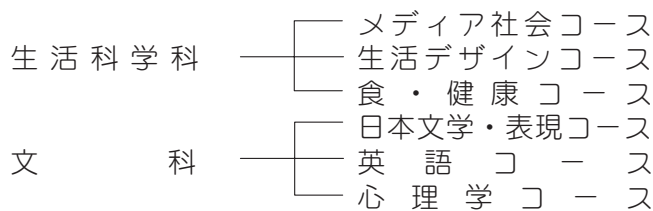
共立女子大学大学院



共立女子大学



共立女子短期大学



図書館
 博物館
 総合文化研究所
 全学教育推進センター

I 履修要項

■ 生活科学科

1. 学科の概要

<生活科学科の人材養成目的>

生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学修意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。

→3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）はP28を確認してください。

生活科学とは

生活科学は、安全・安心・豊かな生活を科学的に追究する学問です。「生活」とは、人間にとってもっとも基本的な「生き方」ということです。「人はどう生きるか」、「どんな人生を送るか」ということです。これを科学的に研究するのが生活科学です。

生活科学の研究には、いくつかの面からのアプローチがあります。従来の衣・食・住からのアプローチは、いうまでもなく重要です。更に、家族・社会・福祉・情報・環境といった、「生活」と関わるすべてのテーマが研究の対象になる、非常に間口の広い学問です。

生活科学科への入学者受け入れ

生活科学科は、「メディア社会コース」「生活デザインコース」「食・健康コース」の3つの専門コースに分かれています。「メディア社会コース」では、ソーシャルメディアをはじめとする多様なメディアを活用する能力を養います。「生活デザインコース」では、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、生活や社会で役立てる方法を学びます。「食・健康コース」では、私たちの生活を支える食事や健康についての知識や方法を習得します。

これら3コースは、どれも生活科学という共通基盤の上に成立しているという特徴を持っています。従って、生活科学に関するさまざまな分野を広く学びたい人も、自分が興味を持っているコースの内容を深く学びたい人も受け入れています。そこで、広く学ぶためにコースを超えて授業を受けることができる制度を整え、また、深く学ぶために卒業研究・卒業制作や卒業ゼミナール、各種の資格取得を支援する科目を備えています。資格取得の支援をする具体例としては、マルチメディア検定、ファッションビジネス能力検定、フードスペシャリストなどがあります。

入試方法にも、多能多才な学生を受け入れるため、体験授業を受けたり教員と面接をしながら進める自己PRタイプの総合型選抜、指定校制推薦入試、学力重視の一般入試や共通テスト利用入試などを用意しています。

生活科学科の教育課程

生活科学科では、人材養成目的にかかげてあるように、「積極的な学習意識に基づき、豊かな教養と生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、それらを活用できる能力を持った女性の育成」を実現するため、次のようにカリキュラムを組み立てています。

1. 専門分野の枠を超えて幅広い教養を身につけ、大学で学ぶことの意味を理解するため、全学共通で行われる教養教育科目が設置されています。中でも「大学での学び」を支援する初年次教育（基礎ゼミナール、課題解決ワークショップ）、国際化に対応するための英語教育（英語 A、英語 B）、情報社会に対応するための情報教育（情報処理）は重要な科目となっています。
2. 専門科目では、生活科学の基礎知識を学ぶとともに、所属コースの学問的方法を体系的に学ぶことを通して、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を養い、有用な問題解決法を学び、社会に出て活躍できる基礎力を身につけることを目指します。
3. 各コースとも、学生の主体性を養うため参加型授業を重視し、特に演習、実験・実習については少人数クラスで実施し、担当助手も支援し、授業外においても個別指導を行います。
4. ガイダンスやクラス担任・担任助手の助言をもとに、学生が関心ある科目を幅広く履修し、学科やコースを超えた領域への関心も広げ、多角的な視点を養えるように、コース横断型の学びを奨励しています。さらに「短期大学開放科目」(P.48)を用意しています。
5. 学修意欲を高めるため、それぞれのコースに対応した資格取得のための授業を用意し、専門的な仕事を指す上で基礎的なスキルを身につけることに力点を置いています。
6. 2年間の勉学の集大成が卒業ゼミナールと卒業研究・卒業制作であり、大学で身に付けた知識、研究方法、論理的思考力や表現力等を十分活用して、その研究・作品が結実するように丁寧な個別指導を行います。

2. カリキュラムの全体像

生活科学科のカリキュラムは下記の表のとおり、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成されています。

教養教育科目 (全学共通)	①自律と努力コア ②創造とキャリアコア ③協働とリーダーシップコア [9ページに解説]		
専門教育科目	生活科学基礎系科目の構成 (3 コース共通) キャリア支援系科目の構成 (3 コース共通) 特別演習系科目 (3 コース共通) [16ページに解説]		
	メディア社会コース 専門科目 ①メディア社会系 ②メディアデザイン系 ③メディア心理系 [17ページに解説]	生活デザインコース 専門科目 ①プロダクトデザイン系 ②ファッションデザイン系 ③インテリアデザイン系 [17ページに解説]	食・健康コース 専門科目 ①食デザイン系 ②健康マネジメント系 ③フードスペシャリスト系 [18ページに解説]

3. 教養教育科目

1. 教養教育の人材養成目的

教養教育の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学・共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために必要な、基本的な知識や技能、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を有する女性を育成する」ことである。

2. 教養教育の目指すもの

一般に大学で勉強するということは、より専門性の高い学問に取り組むということを意味しています。学部・学科・コースなどの区別があって、それぞれの分野を個別、専門的に学ぶ道筋が用意されているのはそのためです。専門分野を深く探求すること、これが大学における勉学の最も基本的な姿だといっていいでしょう。

その一方で、複雑化した現代社会にあって、錯綜する諸課題に的確に対応するためには、深い知識と同時に、広い視野と柔軟な思考力が求められます。本学において、学部・学科ごとの専門教育科目と並んで教養教育科目が置かれているのも、そうした社会の求めに応えて、幅広い教養と豊かな人間性に裏打ちされた総合的判断力を身につけた人材を育てるために他なりません。

本学の教養教育は、学部・学科の枠を超えて、本学に学ぶすべての学生諸君を対象に編成されています。当然のことながら実に様々な目的・目標を持った授業科目が展開されています。みなさんはその中から自分で履修する科目を選び、履修計画を立てなければならないのですが、最初はその多様さに戸惑うかもしれません。以下に教養教育科目全体の構成とそれぞれの目的・目標を大まかにまとめましたので、履修計画を組立てる際の参考にしてください。

3. 教養教育科目の全体の構成

教養教育科目は、以下の3つのコア科目群から構成されています。

(1) 自律と努力コア科目群

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「自己を肯定的に理解する力」「主体的に学ぶ力」「他者との関係を築く力」を養成します。

(2) 創造とキャリアコア科目群

- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「様々な側面から物事を思考・判断・表現するための幅広い知識と技能」「応用力により新たな価値を創造する力」「自らのライフプランやキャリアプランを創造する力」を養成します。

(3) 協働とリーダーシップコア科目群

- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う科目群です。
- ・「協働力・コミュニケーション力」「協力・協働して社会に貢献するためのリーダーシップ」「他者との協働による課題解決能力」を養成します。

4. 教養教育科目の履修上の注意点

(1) 自律と努力コア

①基礎ゼミナール

- ・ 1年次の前期に開講される、全員必修の演習形式の科目です。
- ・ 学科別に30名程度のクラスを設け、各学部の専任教員が担当します。
- ・ 具体的な達成目標としては、次のような事があげられます。
 - 1) 大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。
 - 2) 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。
 - 3) 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。

②論理的思考・文章表現

- ・ 大学教育の基盤となる論理的思考力・文章表現力の育成を目的とする科目です。
- ・ この科目は、1年次前期に開講され、全員に強く履修を推奨する科目です。
- ・ 入学時のプレイスメントテストにより、履修登録が予め行われますが、テストの成績上位1/3の学生は履修が免除されます。

③ライフプランと自己実現

- ・ 基礎ゼミナールで描いたライフプランやキャリアプランをベースにして学修します。将来社会に出て生活していくために、自分の生き方について考える科目です。

④課題解決ワークショップ

- ・ 1年次に開講されます。
- ・ グループでの課題解決型学修を通して、グループワークに必要な基本的なコミュニケーション能力、口頭による発表（プレゼンテーション）や討論の能力を身に付ける科目です。

(2) 創造とキャリアコア

①情報リテラシー

1) 「情報基礎」「情報処理」

- ・ 「情報基礎」は、理論を学修する講義科目で、「情報処理」は演習科目です。学科によって必修となっているので、該当学科の学生は自身で履修登録を行ってください。

2) 「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」

- ・ 「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」は、統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、統計結果の見方について理論的に学修し、アンケート調査等により得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の配信方法などを具体的な課題への取り組みを通して身に付けます。

3) 情報技能検定試験等の結果による単位認定について

●「情報基礎」の単位認定条件

* 以下の A 群・B 群それぞれから 1 以上、合わせて 2 以上の資格・検定を取得

A 群

- ・全商情報処理検定ビジネス情報部門 2 級
- ・全商情報処理検定ビジネス情報部門 1 級

B 群

- ・情報検定 (J 検) 情報デザイン試験 初級
- ・情報検定 (J 検) 情報デザイン試験 上級
- ・情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 4 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 3 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 準 2 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 2 級

●「情報処理」の単位認定条件

以下のいずれかの資格・検定を取得

* IC3 (GS5 と GS4 どちらのバージョンでも可) の「キー アプリケーションズ」科目

* 情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級 + 2 級

* 日商 PC 検定 文書作成 3 級 + データ活用 3 級 + プレゼン資料作成 3 級

* 以下の A 群・B 群・C 群それぞれから 1 以上、合わせて 3 以上の資格・検定

A 群

- ・全商情報処理検定 3 級
- ・全商情報処理検定 2 級ビジネス情報部門
- ・全商情報処理検定 1 級ビジネス情報部門
- ・MOS Excel スペシャリスト
- ・MOS Excel エキスパート
- ・日商 PC 検定 データ活用 3 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 2 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 1 級

B 群

- ・MOS Word スペシャリスト
- ・MOS Word エキスパート
- ・日商 PC 検定 文書作成 3 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 2 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 1 級

C 群

- ・MOS PowerPoint
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 3 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 2 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 1 級

備考: MOS の「バージョン」はいずれでも可。

②英語

1) 「英語 A」「英語 B」

- ・「英語 A」は Listening&Speaking を、「英語 B」は Reading&Writing を学びます。
- ・「英語 A」は外国人教員が担当し、「英語 B」は日本人教員が担当します。
- ・いずれも 1 年間で完結する通年科目です。
- ・入学時に実施されるプレイスメントテストによりレベルが決定されます。

2) 英語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

【条件】

- ・プレイスメントテストで 620 点以上のスコアを取得した学生で、英語技能検定試験等の結果が次の①～④のいずれかに該当した場合、「英語 A」及び「英語 B」の単位を認定します（履修中も認定）。
 - ① TOEIC 700 点以上を取得
 - ② TOEFL 68 点 (iBT) 以上を取得
 - ③ 実用英語技能検定準一級を取得
 - ④ IELTS 5.5 以上

3) 「アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)」「アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)」「アドバンスト英語 C (TOEIC)」

- ・「英語 A」「英語 B」で学んだことをベースに、2 年次以上で履修する科目で、1 年間で完結する通年科目です。効果的な学修のために、以下のような前提条件があります。

科目名	履修条件	備考
アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)	英語 A を修得済みであること	
アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)	英語 B を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 B との同時履修可
アドバンスト英語 C (TOEIC)	英語 A を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 A との同時履修可

※アドバンスト英語 C (TOEIC) は、クラスごとに到達目標が定められています。

③初習外国語

1) 「フランス語」「中国語」「ドイツ語」

- ・それぞれ、履修の段階に応じてⅠ（入門）→Ⅱ（表現）→応用（総合）と進みます。
- ・「Ⅰ（入門）」と「Ⅱ（表現）」は1年次から履修することができ、週2回の授業を受け、半期で完結します。
- ・「応用（総合）」は2年次から履修することができ、週1回の授業を受け、1年間で完結します。履修条件は以下の通りです。

科目名	履修条件	備考
フランス語Ⅱ（表現） 中国語Ⅱ（表現） ドイツ語Ⅱ（表現）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。	Ⅰ（入門）を履修登録すると、後期の同曜日・時限にⅡ（表現）が自動で履修登録されます。Ⅰ（入門）と別曜日・別時限の（表現）を履修することはできません。
応用フランス語（総合） 応用中国語（総合） 応用ドイツ語（総合）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。 Ⅱ（表現）を修得済みまたは履修中であること	以下の応用〇〇語の履修パターンも参照してください。Ⅱ（表現）と同時履修の場合、Ⅱ（表現）が修得できなかった場合は、左記科目の履修は削除されます。

【応用〇〇語】については、以下のパターンが履修条件になります。
履修条件パターン以外で履修した場合は、削除されますので注意してください。

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
入門	表現	応用（総合）	
入門	（入門）	表現	応用（総合）

- ・中国語Ⅰには「特別クラス」が設けられています。教養教育科目を履修した後も、さらに学び続けたいと考える学生を対象としたクラスです。詳細はシラバスを確認しましょう。
- ・2年次に初習外国語を履修する人は、前期（入門）→後期（表現）の順で履修してください。クラスは履修できるところを選択してください。（表現）の自動登録はされませんので、自分で同一のクラスを登録してください。
- ・フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、ドイツ語Ⅰは、（入門）のみを履修する人のために、後期にも（入門）クラスが開講されます。（入門）のみを履修する人は、後期開講の（入門）をお勧めします。
- ・前期の（入門）を履修登録後、後期に登録された（表現）の履修を取り消したい場合は、教務課で手続きをとって下さい。

2) 外国語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・下記のいずれかに該当し、履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

外国語技能検定試験等		単位認定を行う科目
実用フランス語技能検定試験	3級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	準2級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
DELF	A1	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	A2	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
中国語検定	3級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	2級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
HSK	4級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	※5級：180点以上 ※6級：180点以上	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
ドイツ語検定	3級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現）
	2級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現） 応用ドイツ語（総合）

※ HSKについては、2012年以前（旧制度）において、5級もしくは6級を合格した者については、審査対象者とみなす。

④人間を理解するための教養・社会を理解するための教養・自然を理解するための教養

- ・人文、社会、自然の幅広い領域に関する多様な科目が開設されています。全ての科目は半期で完結します。科目の内容（同一科目で複数クラス開講される場合はクラスごと）を共立シラバスで十分確認してから履修する科目を決めてください。
- ・「自己開発」は、学生が自らの意志において、自己開発、自己啓発のために積極的に起こした活動（海外研修、インターンシップなど）を評価し、単位を認定するものです。実際の単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び全学共通教育委員会が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳しくは、共立シラバスをご覧ください。

⑤身体と健康を管理するための教養

1) 「健康スポーツ実習 A」

- ・ 基礎的な運動技術や知識の習得を図り、日常生活に必要な体力と健康に関する運動の必要性及び役割を学びます。活動を通してコミュニケーション能力の向上を図り、人間関係力を高めます。生涯にわたって運動に親しむ態度を身につけます。

2) 「健康スポーツ実習 B」

- ・ 自分に適した運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、多様な運動技術や体力の向上を目指した活動を行います。

⑥キャリアを創造するための教養

- ・ 「自律と努力コア」科目で身に付けた知識や技能、他者との関係の中で一定の役割を果たしていく力を基盤にした、自らのキャリアや現代における「女性の自立」の理解を目標とした科目群です。

(3) 協働とリーダーシップコア

①現代社会の諸課題の解決

- ・ 「自律と努力コア」で身に付けた学修技法と「創造とキャリアコア」で身に付けた知識を活用して、現代社会における諸課題に関する課題解決を学ぶ授業です。

②課題解決実践演習（教養総合ワークショップ A・B）

- ・ 課題を設定し、それに対する課題解決を学生自身が考えることによって、実践的な課題解決力を身に付けるアクティブラーニング型の科目です。

③リーダーシップ開発（ワークショップファシリテーション）

- ・ 「現代社会の諸課題の解決」や「課題解決実践演習」の単位を修得した学生が、そこで身に付けた能力を基盤に、課題解決型授業のラーニングアシスタント（LA）として授業を補助することにより、単位が認定される科目です。

4. 専門教育科目

■コース共通専門科目

生活科学基礎系科目の構成（3コース共通）

3コース共通の「生活科学基礎系科目」は生活科学を構成するもっとも基本的な学問分野について学ぶ科目です。衣食住を学ぶ衣生活論、食生活論、住生活論は、生活科学基礎系の核となる重要科目です。また、PC活用演習、CG基礎演習、CG応用演習は、デジタルメディアのリテラシーと基本的なスキルを身につける社会人に必須の実践的な演習です。「生活科学基礎系科目」全体で、一定の単位数を取得しなければならない選択必修科目群となっています。

キャリア支援系科目の構成（3コース共通）

1年次設置の「キャリアを考える」（必修科目）では、将来の自分の「キャリア」について考え、「働く」とはどのようなことかを再発見します。また、短大生に人気のあるファッション、ブライダル、食品、インテリア、金融、広告等の各分野について、実際に仕事をしているエキスパートを招いて、体験に基づいた実態を学びます。同じく1年次設置の「キャリア実務入門」は、簿記、秘書実務、医療事務、ファイナンシャルプランナー（FP）、公務員の職種・仕事内容などキャリア実務の入門科目として広く学びます。

2年次設置の「キャリアアクティブワーク」は、就職活動に必要とされる知識・技能の習得に向けた実践的な取り組みを内容としています。授業の一部は、文科との合同で行われます。

特別演習系科目（3コース共通）

1年次設置の「チャレンジ・ゼミナール」では、就職や編入学に挑戦するための準備をします。講義や演習科目と異なり、教員から直接指導を受けながら進めます。

2年次設置の「卒業ゼミナール」と「卒業研究・卒業制作」は2年間の学びの集大成として、どちらか一方を履修しなければならない選択必修科目です。いずれにおいても、担当教員と少人数の学生がディスカッションをしながら、研究室の一員として課題に取り組み、その成果を提出します。

両者の違いは、まず「卒業ゼミナール」が2単位であるのに対し、「卒業研究・卒業制作」は4単位であり、このため学修量に相当な違いがあります。さらに「卒業ゼミナール」は指導教員による小規模な発表会に対し、「卒業研究・卒業制作」は生活科学科全体で行われる発表会にて発表を行いません。

■コース専門科目

メディア社会コースにおける専門科目の構成

メディア社会コースは、ソーシャルメディアをはじめとする多様なメディアを活用する能力を養います。また、その企画と制作にかかわる先端的なメディア技術の基礎を身につけ、企業や地域において活躍できる女性を育成することを目標とし、つぎの3分野から構成されています。

- ①メディア社会系
- ②メディアデザイン系
- ③メディア心理系

①メディア社会系では、メディア社会論、ソーシャルメディア論、ポップカルチャー論、情報メディア演習などを学ぶことにより、ソーシャルメディアを中心に生活に密着したメディアについて最新の動向や持続可能な発展を支える社会的役割について理解します。②メディアデザイン系では、メディアデザイン論、CG 演習、Web デザイン演習などを学ぶことにより、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養い、ビジネス実務とさまざまなクリエイティブ制作の実践力を身につけます。③メディア心理系では、メディア心理学、消費者の心理、マーケティングリサーチ演習などを学ぶことにより、これからのメディア社会が生活者の行動・心理に及ぼす影響について理解します。

生活デザインコースにおける専門科目の構成

生活デザインコースでは、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、さらに形にしていくことから生活や社会において実際に役立つ方法を学びます。そのために必要とする知識やスキル、応用力を養うことを目標とし、つぎの3分野から構成されています。

- ①プロダクトデザイン系
- ②ファッションデザイン系
- ③インテリアデザイン系

①プロダクトデザイン系では、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、演習や実習を通じてデザインするスキルを身につけます。②ファッションデザイン系では、衣服やその装い方を対象に、基本的な制作方法を学ぶことからファッションデザインや企画などの演習を通じて実践に応用する力を養います。③インテリアデザイン系では、住居や住空間を対象に、知識や原理に加えて、設計、製図、インテリア CADなどを初歩から高度な応用まで学び、提案する技術を習得します。

3分野ともに深い繋がりを持って構成されています。このコースでの学修を通じて、デザインの持つ大きな可能性に気付くことを期待します。

食・健康コースにおける専門科目の構成

食・健康コースでは社会で活躍できる「食」のスペシャリストを育成することを目標としています。そのために、「食」の基本となる栄養、食品、調理の3つの分野の幅広い専門科目を実験・実習・演習を通して実践的に学びます。このような学修によって、「食」のプランニング力や提案力を養い、将来に役立つ能力を身につけます。本コースの専門科目はつぎの3分野から構成されています。

- ①食デザイン系
- ②健康マネジメント系
- ③フードスペシャリスト系

①食デザイン系では、調理学実習基礎、調理学実習応用、スイーツ実習の3つの実習科目を通して、調理や製菓の基礎を学んだ上で、調理を科学的に理解しながら、「食」を総合的にデザインするスキルを習得します。また、フードメディア演習などでPCの実践的なスキルを身につけ、フードビジネスに活かすことを学びます。

②健康マネジメント系では、食物基礎科学、栄養学、女性と健康などの科目を通して、栄養と健康の基礎を学びます。さらに食育演習、ライフステージ栄養演習などの健康をマネジメントしていく科目により、子どもから大人まで生涯にわたる健康的な身体作りに関する知識を学び、健康ビジネスに活かすことができるような実践的なスキルを体得します。

③フードスペシャリスト系では、食品学、食品衛生学、フードスペシャリスト論などの科目を通して、フードビジネスに必要なフードスペシャリストや食品衛生責任者の資格取得のための知識や技術を習得します。

フードスペシャリスト資格は「食」を幅広く学ぶことによって得られる資格です。取得に必要な必須科目は3つの分野に分かれていますので、それぞれの分野から必要な科目を履修してください。

本コースではフードスペシャリスト資格取得の支援以外に、食品衛生責任者の資格支援についても、積極的に取り組んでいます。(資格については「11. 諸資格」P.26)

他コース、他学科の授業科目の履修

各コースに設置されている専門科目のほか、に所定の範囲内で、他コースおよび他学科(短期大学開放科目(P.48))の科目を履修し、修得単位を卒業単位に含めることができます。

自分が所属しているコース以外のコースの授業科目および他学科科目を修得する場合、12単位を限度として専門教育科目の選択科目の卒業単位に含めることができます。ただし履修者数が限られている実験、実習、演習科目は、他コースからの履修が制限されることがあります。

共立女子大学の科目については、大学および短期大学間の単位互換制度により学部の開放科目を履修することができます。さらに、千代田区キャンパスコンソーシアムの構成大学間の単位互換制度を利用して、共立女子大学を含む他大学の所定の科目を無料で受講することができます。修得した単位は12単位を限度として卒業単位に含めることができます。また、12単位を超えた場合も、将来編入すると、既に履修した単位として認定を受ける場合があります。(「科目等履修生制度」「編入学」について、詳しくはp.68を参照してください)。

コース所定の科目を履修すれば卒業要件に達しますが、他コース、他学科、共立女子大学、他大学の開講科目を履修することによって、有意義な学生生活を送ることができます。

5. 卒業の要件

- 生活科学科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
- 生活科学科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（生活科学）の学位が与えられます。
- 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

区分		コース		メディア社会コース		生活デザインコース		食・健康コース	
		必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目
教養教育科目	必修科目	3	14	3	14	3	14	3	14
	選択必修科目	4		4		4			
	選択科目	7		7		7			
専門教育科目	必修科目	2	48	2	48	2	48	2	48
	選択必修科目	8		14		12			
	選択科目	38		32		34			
合計		62		62		62		62	

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。
卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から決められた単位数を取得しなければならない科目
選択科目	各自の自由意志に基づいて選択履修する科目

6. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

- 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。
 - 必修科目……………1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。
 - 選択必修科目…2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。
 - 選択科目……………空欄になっています。
- 開講期間の表示

記号	記号の意味
無印	半期（前期または後期）開講
★	通年開講

教育課程（カリキュラム）

教養教育科目（各コース共通）

※は事前貼り付け

		授業科目	年次	単位	卒業要件
努力 自立と コア	自立・自活のための基礎科目	基礎ゼミナール ※	1	1	1
		論理的思考・文章表現	1	1	
		ライフプランと自己実現 ※	1	2	
		課題解決ワークショップ	1	1	
創造 と キャリア コア	情報リテラシー	情報基礎	1	2	2
		情報処理	1	2	
		情報の分析と活用 A	1・2	2	
		情報の分析と活用 B	1・2	2	
	英語	★英語 A（リスニング・スピーキング）※	1	2	2
		★英語 B（リーディング・ライティング）※	1	2	
		★アドバンスト英語 A（ビジネス口頭表現）	2	2	
		★アドバンスト英語 B（ビジネス文章表現）	2	2	
		★アドバンスト英語 C（TOEIC）	2	2	
	初習外国語	フランス語 I（入門）	1	2	
		フランス語 II（表現）	1	2	
		★応用フランス語（総合）	2	2	
		中国語 I（入門）	1	2	
		中国語 II（表現）	1	2	
		★応用中国語（総合）	2	2	
		ドイツ語 I（入門）	1	2	
		ドイツ語 II（表現）	1	2	
		★応用ドイツ語（総合）	2	2	
		★コリア語 I（入門）	1	2	
		★コリア語 II（表現）	1	2	
★スペイン語 I（入門）	1	2			
★スペイン語 II（表現）	1	2			
★イタリア語	1	2			

(次ページへ続く→)

(←前ページから)

		授業科目	年次	単位	卒業要件
創造とキャリアコア	初習外国語	★ アラビア語	1	2	2
		★ 基礎日本語（留学生対象）	1・2	2	
		★ 応用日本語（留学生対象）	1・2	2	
	人間を理解するための教養	日本の歴史を学ぶ	1・2	2	
		世界の歴史を学ぶ	1・2	2	
		人間と地理を学ぶ	1・2	2	
		文学をひらく	1・2	2	
		芸術をひらく	1・2	2	
		哲学とは何か	1・2	2	
		心理を学ぶ	1・2	2	
		自己開発	1・2	2	
	社会を理解するための教養	法律を学ぶ（日本国憲法）	1・2	2	
		法律を学ぶ（概論）	1・2	2	
		政治を学ぶ	1・2	2	
		倫理学とは何か	1・2	2	
		国際関係を学ぶ	1・2	2	
		地域社会と家族を学ぶ	1・2	2	
		経済を学ぶ	1・2	2	
		社会を学ぶ	1・2	2	
	自然を理解するための教養	自然と地理を学ぶ	1・2	2	
		数学への招待	1・2	2	
		生物学への招待	1・2	2	
		物理学への招待	1・2	2	
		化学への招待	1・2	2	
	身体と健康を管理するための教養	健康スポーツ実習 A	1・2	1	
		健康スポーツ実習 B	1・2	1	
	キャリアを創造するための教養	企業と社会の仕組み	2	2	
マーケティング		2	2		
女性の生き方と社会		2	2		
リーダーシップと協働と リーダーシップコア	現代社会の諸課題の解決	現代社会の諸課題（経済・産業）	2	2	
		現代社会の諸課題（環境・科学）	2	2	
		現代社会の諸課題（文化・芸術）	2	2	
		現代社会の諸課題（生活・地域）	2	2	
		現代社会の諸課題（メディア・表現）	2	2	
	課題解決実践演習	★ 教養総合ワークショップ A	1・2	4	
		★ 教養総合ワークショップ B	2	4	
	リーダーシップ開発	ワークショップファシリテーション	2	2	
必修科目					3
選択必修科目					4
上記全科目より					7
計					14

〈メディア社会コース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
生活科学基礎系	衣生活論	1・2	2	6	「CG 演習 A・B」を履修済であることが望ましい
	食生活論	1・2	2		
	住生活論	1・2	2		
	心の健康	1・2	2		
	PC 活用演習 ※	1	1		
	CG 応用演習	2	1		
キャリア支援系	キャリア実務入門	1	2	2	
	キャリアを考える	1	2		
	キャリアアクティブワーク	2	2		
特別演習系	チャレンジ・ゼミナール	1	2	2	
	★卒業ゼミナール	2	2		
	★卒業研究・卒業制作	2	4		

専門教育科目（メディア社会コース）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
メディア社会系	メディア社会論	1	2		
	ソーシャルメディア論	1	2		
	ポップカルチャー論	1	2		
	メディアカルチャー演習	1	2		
	サステイナブル社会論	2	2		
	情報メディア演習	2	2		
メディアデザイン系	メディアデザイン論	1	2		「CG 演習 B」を履修することが望ましい 「CG 演習 A」を履修することが望ましい 「CG 演習 A・B」を履修済であることが望ましい 「CG 演習 A・B」を履修済であることが望ましい
	CG 演習 A（イラストレーター）	1	2		
	CG 演習 B（フォトショップ）	1	2		
	アニメーション制作演習	1	2		
	ユニバーサルデザイン論	2	2		
	DTP 演習	2	2		
	Web デザイン演習	2	2		
メディア心理学系	消費者の心理	1	2		
	メディア心理演習	1	2		
	心理データ解析演習（SPSS）	1	2		
	メディア心理学	2	2		
	マーケティングリサーチ演習	2	2		
必修科目				2	
選択必修科目				8	
上記全科目より （他コース・他学科科目 12 単位まで含むことができる）				38	
計				48	

★は通年科目
※は事前貼り付け

〈生活デザインコース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
生活科学基礎系	衣生活論	1・2	2	6	
	食生活論	1・2	2		
	住生活論	1・2	2		
	心の健康	1・2	2		
	PC活用演習 ※	1	1		
	CG基礎演習 ※	1	1		
キャリア支援系	キャリア実務入門	1	2	2	
	キャリアを考える	1	2		
	キャリアアクティブワーク	2	2		
特別演習系	チャレンジ・ゼミナール	1	2	2	
	★卒業ゼミナール	2	2		
	★卒業研究・卒業制作	2	4		

専門教育科目（生活デザインコース）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
プロダクトデザイン系	生活デザイン論	1	2	2	
	★生活プロダクトデザイン演習	1	4		
	カラーコーディネート演習	1	2		
	デッサン（実習）	1	1		
	プロダクトデザイン論	2	2		
	イラストレーション（実習）	2	1		
	彫金実習	2	1		
ファッションデザイン系	ファッションデザイン論	1	2	2	
	★ファッションデザイン演習	1	4		
	アパレル制作実習	1	1		
	染色工芸実習	1	1		
	ファッションビジネス論	2	2		
	アパレル企画演習	2	2		
	和装デザイン実習	2	1		
インテリアデザイン系	快適住環境論	1	2	2	「インテリア設計演習」を修得していること
	インテリア設計演習	1	2		
	インテリア製図演習Ⅰ	1	2		
	★インテリアCAD実習基礎	1	2		
	インテリア構成論	2	2		
	インテリア製図演習Ⅱ	2	2		
	インテリアCAD実習応用	2	1		
必修科目				2	
選択必修科目				14	
上記全科目より （他コース・他学科科目12単位まで含むことができる）				32	
計				48	

★は通年科目
※は事前貼り付け

〈食・健康コース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	フードスペシャリスト	備考
生活科学基礎系	衣生活論	1・2	2	6		
	食生活論	1・2	2			
	住生活論	1・2	2			
	心の健康	1・2	2			
	PC活用演習 ※	1	1			
	CG基礎演習 ※	1	1			
キャリア支援系	キャリア実務入門	1	2	2		
	キャリアを考える	1	2			
	キャリアアクティブワーク	2	2			
特別演習系	チャレンジ・ゼミナール	1	2	2		
	★卒業ゼミナール	2	2			
	★卒業研究・卒業制作	2	4			

専門教育科目（食・健康コース）

	授業科目	年次	単位	卒業要件	フードスペシャリスト	備考
食デザイン系	調理学	1	2	2	◎	
	フードメディア演習	1	2			
	調理学実習基礎	1	1		◎	
	フードコーディネート論	2	2		◎	
	フードパッケージ実習	2	1			
	調理学実習応用	2	1		◎	
	スイーツ実習	2	1			
健康マネジメント系	食物基礎科学	1	2	2	◎	
	栄養学	1	2		◎	
	生活基礎演習	1	2			
	食育演習	1	2			
	女性と健康	2	2			
	ライフステージ栄養演習	2	2			
フードスペシャリスト系	食品学	1	2		◎	
	食品衛生学	1	2		◎	
	嗜好評価処理演習	1	2		◎	
	食品学実験	1	1		◎	
	食品の消費と流通	2	2		◎	
	フードスペシャリスト論	2	2		◎	
	フードスペシャリスト演習	2	2			
必修科目				2	21	◎の科目
選択必修科目				12		
上記全科目より (他コース・他学科科目 12 単位まで含むことができる)				34		
計				48	21	

★は通年科目

※は事前貼り付け

7. チャレンジ・ゼミナール

1. 就職チャレンジ、編入学チャレンジ、の2種類があり、これらの内1つを選んで履修します。
2. 履修しようとするときは、就職、編入学のどちらかを選び、指導教員が決定した後、履修登録します。
3. 1年次で履修してください。履修登録は6月に行います。
4. 2単位とし、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。詳細は、基礎ゼミナールの授業で説明します。

8. 卒業ゼミナール

1. 卒業ゼミナールの履修は、所定の方法に従い、担当教員に申込書を提出してください。
2. 卒業ゼミナールは、通年2単位とし、指導教員による小規模な発表会で報告し、また指定された日時までにレポート・作品を提出することを前提に、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。
レポート・作品の提出先は各指導教員です。

9. 卒業研究・卒業制作

1. 卒業研究・卒業制作の履修は、所定の方法に従い、担当教員に申込書を提出してください。
2. 卒業研究・卒業制作は、通年4単位とし、卒業研究・卒業制作発表会で報告し、また指定された日時までに論文・作品および卒業研究・卒業制作要旨集原稿を提出することを前提に、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。
研究論文、卒業作品、要旨集原稿の提出先は各指導教員です。

10. インターンシップ制度について

この制度は学生が夏期、春期休業中等に2週間程度、企業や団体で研修を行うもので、学校内での学修の上に、広く実社会での研修を積み重ね、自分の関心の高い分野でより高度な経験をすることができます。こうした研修、および、その前後の学修を行い、関連科目の単位を取得した場合、「自己開発」の単位を取得することができます。ただし、同じインターンシップという名称で、1日程度の、実質的には就職活動の一部であるものは、この制度の対象外です。

生活科学科に関するインターンシップ制度には大きく以下の方法があります。

1. 共立女子大学、短期大学へ企業や団体から研修応募依頼があるもの
学生支援課キャリア支援グループが担当し、**kyonet** で案内が届きます。
2. インテリア・インターンシップ・インコーポレーション（I. I. I.）に基づく研修
住居・インテリアデザイン系の教科内容を持つ大学・短大（本学科を含む）・専門学校5校とインテリア・ディスプレイ・住宅設備・リフォーム等の分野の10事業団体とが協力して、住居・インテリア系の企業・団体で研修を行う制度です。主に1年の春期休業中に行い、参加希望者の登録や相手の企業・団体との連絡等は学科で行います。研修を終えた学生による報告会を行います。
3. 上記以外の、教員の紹介による研修で、上記に相当する内容を持つもの

11. 諸資格

フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト

フードスペシャリスト資格とは

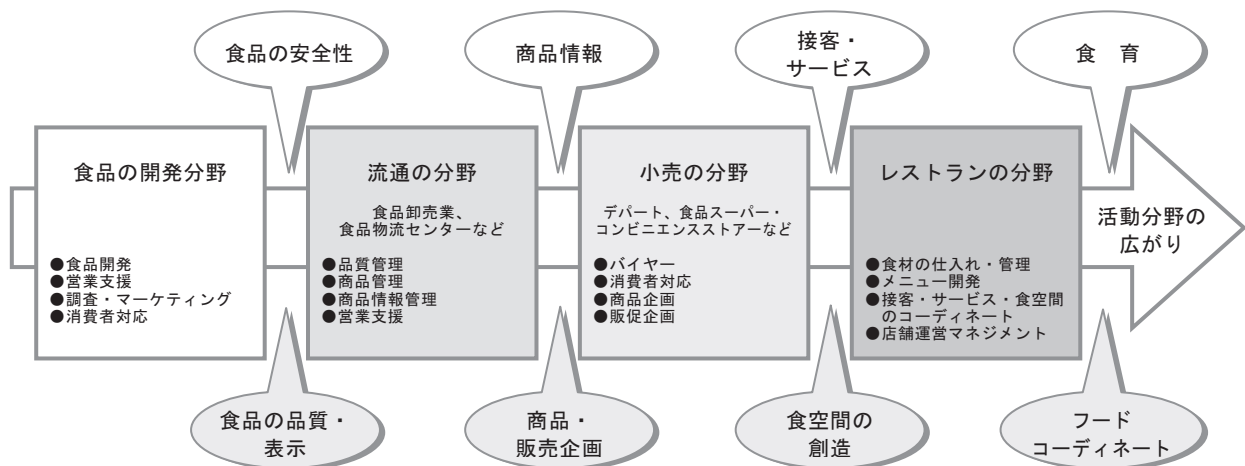
フードスペシャリストとは、フードスペシャリスト協会が認定する民間資格で、「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけた「食」の専門職のことです。フードスペシャリスト資格は、フードスペシャリスト協会が認定した本学科で「食」について2年間学んだ後、フードスペシャリスト協会が主催する資格認定試験に合格して得られる資格です。

フードスペシャリストの活躍が期待されている職域は、食品メーカー、食品流通業、食品小売業、レストランなどの飲食業（外食産業）などが挙げられます。また、専門性を駆使して食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る幅広い分野での活躍が期待されています。

フードスペシャリスト、専門フードスペシャリストの主な業務項目（四訂フードスペシャリスト論第4版（建帛社）より抜粋）

1. 食品の鮮度・熟度、官能評価、成分検査、微生物汚染検査など（品質判定）
2. 食品の情報調査とその提供（広報活動）
3. 食品の栄養価・機能性・安全性についての知識の普及（教育）
4. 食品の陳列・サービスに関する助言（販売促進とコーディネート）
5. レストランにおける食べ物、食環境の調和を総合的に調節（食のコーディネート）
6. 健康で快適な食生活の啓発と食育の普及（食育活動）

■ フードスペシャリストの活躍が期待される職域の広がり



資格をとるためには

公益社団法人日本フードスペシャリスト協会の認定校である本学で所定の単位を修得し、資格認定試験を受け、合格し、なおかつ短期大学を卒業することが条件です。履修ガイドにあるカリキュラム表のとおり履修することで受験資格が得られます。しかし、フードスペシャリストの資格認定試験に合格するためには、◎以外の科目も積極的に履修することが望まれます。専門フードスペシャリストは、フードスペシャリストと同日に受験可能ですが、フー

ドスペシャリストに合格することが専門フードスペシャリストの合格要件です。

資格認定試験について

例年2年次の12月第3日曜日に実施されます。試験は2部構成で、前半にフードスペシャリスト、後半に専門フードスペシャリストの試験を行います。合格すると、短期大学の卒業を要件としてフードスペシャリスト協会から資格認定証が交付されます。

食品衛生責任者

食品衛生責任者とは

食品衛生責任者とは、営業者の指示に従い食品衛生上の管理運営にあたる人を言います。食品関係の営業を行う場合、次のとおり食品衛生責任者の設置と義務が定められています。(食品衛生法施行条例別表第一「公衆衛生上講ずべき措置の基準」より抜粋)

- ・ 営業者は、許可施設ごとに自ら食品衛生に関する責任者となるか、又は当該施設における従事者のうちから食品衛生責任者1名を定めて置かなければならない。
- ・ 食品衛生責任者は、営業者の指示に従い食品衛生上の管理運営に当たるものとする。
- ・ 食品衛生責任者は、食品衛生上の危害の発生を防止するための措置が必要な場合は、営業者に対して改善を進言し、その促進を図らなければならない。
- ・ 食品衛生責任者は、法令の改廃等に留意し、違反行為のないように努めなければならない。

資格をとるためには

食品衛生責任者になるためには、次の2つの道があります。ひとつは栄養士、調理師、製菓衛生師などの有資格者だと、自動的に食品衛生責任者になれます。もうひとつは保健所長(特別区にあっては、特別区の区長)が実施する、食品衛生責任者になるための講習会または知事の指定した講習会を受講すると資格を得ることができます。資格取得講習会は6時間以上のカリキュラム(テスト含む)です。

- ・ 公衆衛生学(伝染病、疾病予防、環境衛生、労働衛生等) 1時間
- ・ 衛生法規(食品衛生法、施設基準、管理運営基準、規格基準、公衆衛生法規等) 2時間
- ・ 食品衛生学(食品事故、食品の取扱い、施設の衛生管理、自主管理等) 3時間

本学の学生は長期休みなどを利用して、東京都内などで実施される養成講習会を受講します。講習会受講料は10,000円(当日会場払い(2021年1月現在))で、別途交通費および昼食代がかかります。

★共立女子短期大学生活科学科 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー	<p>生活科学科は、本科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。</p> <p>(1) 社会に広く貢献する自立した女性として求められる幅広い教養と、生活科学に関するメディア、デザイン、食、情報、環境等の分野における知識・能力を身に付けている。(知識・理解)</p> <p>(2) 家庭および社会において、生活者として知識を活用するために必要な、メディア、デザイン、食、情報、環境、コミュニケーション等に関する能力を身に付けている。(技能)</p> <p>(3) 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付けている。(思考・判断・表現)</p> <p>(4) 積極的な学修意欲を持ち、思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身に付けている。(関心・意欲・態度)</p>						
カリキュラム・ポリシー	<p>生活科学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを学生に修得させるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。</p> <p>教育課程編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。</p> <table border="1" data-bbox="215 533 1441 1608"> <thead> <tr> <th data-bbox="215 533 997 566">教育内容</th> <th data-bbox="997 533 1257 566">教育方法</th> <th data-bbox="1257 533 1441 566">学修成果の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="215 566 997 1608"> <p>【教養教育科目】</p> <p>自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。</p> <p>大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。</p> <p>専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。</p> <p>新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。</p> <p>現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。</p> <p>他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な力を育成する。</p> <p>専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>(1) 生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、メディア社会コース、生活デザインコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。</p> <p>(2) 生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む『特別演習系科目』をコース共通科目として配置する。</p> <p>(3) メディア社会コースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア社会」、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養う「②メディアデザイン」、メディアが生活者の行動・心理に及ぼす影響を理解する「③メディア心理」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(4) 生活デザインコースでは、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「①プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践応用能力を養う「②ファッションデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなど初歩から高度な応用までを学び、提案する能力の修得を目指す「③インテリアデザイン」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(5) 食・健康コースでは、調理の理論と実践や食品の魅力的な伝達手法など、食をデザインするために必要な知識・技能を養う「①食デザイン」、栄養と健康の関係といった健康づくりの基礎的素養、健康に関する問題発見から解決手法を養う「②健康マネジメント」、フードスペシャリスト資格取得に必要な知識やフードコーディネートの表現手段を身に付ける「③フードスペシャリスト」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(6) 上記の3つのコースの科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。</p> <p>(7) 生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学開放科目」を配置し、学生の主体的な学びを促し、関心のある領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p> </td> <td data-bbox="997 566 1257 1608"> <p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、表現力、養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p> </td> <td data-bbox="1257 566 1441 1608"> <p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち20単位以上を修得していることを条件とする。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	教育内容	教育方法	学修成果の評価	<p>【教養教育科目】</p> <p>自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。</p> <p>大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。</p> <p>専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。</p> <p>新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。</p> <p>現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。</p> <p>他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な力を育成する。</p> <p>専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>(1) 生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、メディア社会コース、生活デザインコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。</p> <p>(2) 生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む『特別演習系科目』をコース共通科目として配置する。</p> <p>(3) メディア社会コースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア社会」、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養う「②メディアデザイン」、メディアが生活者の行動・心理に及ぼす影響を理解する「③メディア心理」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(4) 生活デザインコースでは、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「①プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践応用能力を養う「②ファッションデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなど初歩から高度な応用までを学び、提案する能力の修得を目指す「③インテリアデザイン」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(5) 食・健康コースでは、調理の理論と実践や食品の魅力的な伝達手法など、食をデザインするために必要な知識・技能を養う「①食デザイン」、栄養と健康の関係といった健康づくりの基礎的素養、健康に関する問題発見から解決手法を養う「②健康マネジメント」、フードスペシャリスト資格取得に必要な知識やフードコーディネートの表現手段を身に付ける「③フードスペシャリスト」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(6) 上記の3つのコースの科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。</p> <p>(7) 生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学開放科目」を配置し、学生の主体的な学びを促し、関心のある領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p>	<p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、表現力、養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p>	<p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち20単位以上を修得していることを条件とする。</p>
教育内容	教育方法	学修成果の評価					
<p>【教養教育科目】</p> <p>自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。</p> <p>大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。</p> <p>専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。</p> <p>新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。</p> <p>現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。</p> <p>他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な力を育成する。</p> <p>専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>(1) 生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、メディア社会コース、生活デザインコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。</p> <p>(2) 生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む『特別演習系科目』をコース共通科目として配置する。</p> <p>(3) メディア社会コースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア社会」、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養う「②メディアデザイン」、メディアが生活者の行動・心理に及ぼす影響を理解する「③メディア心理」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(4) 生活デザインコースでは、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「①プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践応用能力を養う「②ファッションデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなど初歩から高度な応用までを学び、提案する能力の修得を目指す「③インテリアデザイン」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(5) 食・健康コースでは、調理の理論と実践や食品の魅力的な伝達手法など、食をデザインするために必要な知識・技能を養う「①食デザイン」、栄養と健康の関係といった健康づくりの基礎的素養、健康に関する問題発見から解決手法を養う「②健康マネジメント」、フードスペシャリスト資格取得に必要な知識やフードコーディネートの表現手段を身に付ける「③フードスペシャリスト」の3分野の科目を体系的に配置する。</p> <p>(6) 上記の3つのコースの科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。</p> <p>(7) 生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学開放科目」を配置し、学生の主体的な学びを促し、関心のある領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p>	<p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、表現力、養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p>	<p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち20単位以上を修得していることを条件とする。</p>					
アドミッション・ポリシー	<p>生活科学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。</p> <p>(1) 生活科学の各分野について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識を有し、且つ入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)</p> <p>(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語」「外国語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な知識・技能を、「数学」「理科」を通じて科学的思考力の基礎的な知識・技能を、さらに「地理歴史」「公民」を通して生活や社会の構造を理解するための基礎的な知識・技能を身に付けている。(知識・技能)</p> <p>(3) 自らの考えや感じたことを表現する基本的な能力を有している。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>(4) 生活科学の学びの中で発見する諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を有している。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>(5) 生活科学の各分野で実験・実習や演習等を通じて専門的な技能を深めていく意欲を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p> <p>(6) 生活科学の領域に強い関心を持ち、自主的に学ぼうとする意欲と誠実に探究していく態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p> <p>(7) 将来にわたって生活にかかわる諸課題を、主体的な情報収集と他者との対話を通して探求する意欲を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p>						

———— Memo ————

■ 文科

1. 学科の概要

<文科の人材養成目的>

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

→3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）はP47を確認してください。

文科では次のような学生を受け入れています

- 1 将来を自分の力で切り開いていこうとする意欲を持った人
- 2 表現する能力や、コミュニケーションの能力を高めようと思っている人
- 3 読書が好きで、文章を書く力や読解力を身に付けたいと思っている人
- 4 知的探求心を持ち、豊かな文化的教養を身に付けたいと思っている人
- 5 世界の文化に関心を持ち、異文化に触れてみたいと思っている人
- 6 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にしている人

文科の科目についての説明

文科は、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースからなる学科です。各コースとも特色あるカリキュラムを用意し、それぞれのコースに関する専門的な知識と豊かな人間性とを兼ね備えた、新しい時代にふさわしい人材の養成を目指しています。文科全体としてはリテラシー教育に力を入れており、各コース共通の「文章表現法」「コミュニケーション論」及びプレゼンテーションの力を伸ばす「伝える技術」の科目を設け、一人の自立した人間として成長していくための、文章表現能力やコミュニケーション能力の養成を目指しています。また、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養するための共通科目として、「カルチャー科目」「キャリアサポート科目」を設けています。以上のように、文科のカリキュラムは、各コースの専門科目と共通科目、さらには、全学共通の教養教育科目を通して、一人の自立した人間として未来を切り開く積極性や、豊かな表現能力、コミュニケーションの能力、他者を思いやる豊かな人間性を持った女性を育成することを目指しています。

〔日本文学・表現コース〕

日本文学・表現コースは、**リテラシー**（ことば）・**リテラチャー**（文学）・**クリエイト**（創造）・**カルチャー**（教養）の2L&2Cを軸に、現代の社会が要求する知性と教養とを身につけ、広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。履修上の最大の特徴は、専門科目の**選択の自由さ**にあります。特定の分野を集中的に学ぶことも、まん

べんなく幅広く学ぶことも、みなさんの希望次第なのです。

リテラシー部門では、特に文章表現を重視し、ことばの技術を全員で学びます。また現代社会で情報を的確に選択し活用するために、「現代のことば」「コミュニケーション論」などの科目を設けています。**リテラチャー**部門では、日本文学についての基本的知識や鑑賞方法などを学びます。1年次の基礎的な講義では読解力を養い、2年次の古典文学や近代現代文学の研究では、各時代の作品や資料を、より深く掘り下げます。また、少人数制の「文学とことばのセミナー」では研究やものの考え方を身につけられるよう、きめ細かく指導しています。

クリエイト部門では児童文学、映画・演劇論などから、小説の創作方法を作家から実地に指導を受けられる「文学創作演習」やアニメについて学ぶ「アニメの物語学」といった科目、また**カルチャー**部門では、「ジェンダー論」「こども文化論」「環境文化論」「東京学」など、視野を広げることのできる多彩な科目を履修できます。

〔英語コース〕

英語コースでは '**4 Skills**'、'**Language & Literature**'、'**Business Skills**' の3つを柱に、英語の運用能力と英文学・英米文学・国際社会の教養を身につけ、社会で活躍できる人材の養成を目的としています。

4 Skills の分野では、1年次は Reading I・II、Writing I・II、Listening I・II、Oral English I・II の習熟度別のクラスで「読む・書く・聞く・話す」の英語運用能力の確実なステップアップを図ります。2年次の English for Special Purposes では、就職や進学に役立つ内容や日常英会話・外国文化を学びながら、総合的な英語運用能力の向上を図ります。

Language & Literature の分野では、英語の分析的な研究、英米文学作品の鑑賞、異文化の理解など、英語の知識ばかりではなく幅広い教養も身につけられるような授業を設置しています。

Business Skills の分野は、社会人になってから役に立つ技術と教養を身につけることを目指しており、News English、Business English、通訳法、翻訳法などの授業があります。また、TOEIC 演習を設置して、習熟度別のクラスで各自のレベルに合った内容を効率よく学び、卒業時まで TOEIC テスト 500 点以上の取得を目指します。

授業の他に、年1回の文科主催の英語スピーチコンテストや大学・短大による海外語学研修を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を図り、異文化への理解を深めることに努めます。

〔心理学コース〕

心理学コースは、心を「客観的」にとらえる事を通して、人との「コミュニケーションの能力」や自分あるいは他者を理解する力を身につけ、自分を表現する力を養うコースです。カリキュラムは、大きく「**自分を知る**」「**心理学の基礎を学ぶ**」「**人間を知る・学ぶ**」の三つに分かれていますが、この他に、文科の共通科目として、「リテラシー基礎」「カルチャー」「キャリアサポート」科目群があります。「自分を知る」は、表現する力と、心理学の基礎となる**自分や他人の心を分析する方法**を学びます。「心理学の基礎を学ぶ」では、心理学という学問の基礎を体系的に学びます。「人間を知る・学ぶ」では、心理学の応用的な知識を学びます。2年次には「**心理学卒業演習**」を必修で履修することになりますが、ここでは心理学コースで学んだことを通して、教員による指導のもとに卒業論文作成に挑みます。このように心理学コースでは、**心理学の基礎的な知識のみならず、幅広くかつ深い知識**を習得できるような科目構成になっています。

2. 教養教育科目

1. 教養教育の人材養成目的

教養教育の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学・共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために必要な、基本的な知識や技能、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を有する女性を育成する」ことである。

2. 教養教育の目指すもの

一般に大学で勉強するということは、より専門性の高い学問に取り組むということを意味しています。学部・学科・コースなどの区別があって、それぞれの分野を個別、専門的に学ぶ道筋が用意されているのはそのためです。専門分野を深く探求すること、これが大学における勉学の最も基本的な姿だといっていいでしょう。

その一方で、複雑化した現代社会にあって、錯綜する諸課題に的確に対応するためには、深い知識と同時に、広い視野と柔軟な思考力が求められます。本学において、学部・学科ごとの専門教育科目と並んで教養教育科目が置かれているのも、そうした社会の求めに応えて、幅広い教養と豊かな人間性に裏打ちされた総合的判断力を身につけた人材を育てるために他なりません。

本学の教養教育は、学部・学科の枠を超えて、本学に学ぶすべての学生諸君を対象に編成されています。当然のことながら実に様々な目的・目標を持った授業科目が展開されています。みなさんはその中から自分で履修する科目を選び、履修計画を立てなければならないのですが、最初はその多様さに戸惑うかもしれません。以下に教養教育科目全体の構成とそれぞれの目的・目標を大まかにまとめましたので、履修計画を組立てる際の参考にしてください。

3. 教養教育科目の全体の構成

教養教育科目は、以下の3つのコア科目群から構成されています。

(1) 自律と努力コア科目群

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「自己を肯定的に理解する力」「主体的に学ぶ力」「他者との関係を築く力」を養成します。

(2) 創造とキャリアコア科目群

- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「様々な側面から物事を思考・判断・表現するための幅広い知識と技能」「応用力により新たな価値を創造する力」「自らのライフプランやキャリアプランを創造する力」を養成します。

(3) 協働とリーダーシップコア科目群

- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う科目群です。
- ・「協働力・コミュニケーション力」「協力・協働して社会に貢献するためのリーダーシップ」「他者との協働による課題解決能力」を養成します。

4. 教養教育科目の履修上の注意点

(1) 自律と努力コア

①基礎ゼミナール

- ・ 1年次の前期に開講される、全員必修の演習形式の科目です。
- ・ 学科別に30名程度のクラスを設け、各学部の専任教員が担当します。
- ・ 具体的な達成目標としては、次のような事があげられます。
 - 1) 大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。
 - 2) 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。
 - 3) 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。

②論理的思考・文章表現

- ・ 大学教育の基盤となる論理的思考力・文章表現力の育成を目的とする科目です。
- ・ この科目は、1年次前期に開講され、全員に強く履修を推奨する科目です。
- ・ 入学時のプレイスメントテストにより、履修登録が予め行われますが、テストの成績上位1/3の学生は履修が免除されます。

③ライフプランと自己実現

- ・ 基礎ゼミナールで描いたライフプランやキャリアプランをベースにして学修します。将来社会に出て生活していくために、自分の生き方について考える科目です。

④課題解決ワークショップ

- ・ 1年次に開講されます。
- ・ グループでの課題解決型学修を通して、グループワークに必要な基本的なコミュニケーション能力、口頭による発表（プレゼンテーション）や討論の能力を身に付ける科目です。

(2) 創造とキャリアコア

①情報リテラシー

1) 「情報基礎」「情報処理」

- ・ 「情報基礎」は、理論を学修する講義科目で、「情報処理」は演習科目です。学科によって必修となっているので、該当学科の学生は自身で履修登録を行ってください。

2) 「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」

- ・ 「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」は、統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、統計結果の見方について理論的に学修し、アンケート調査等により得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の配信方法などを具体的な課題への取り組みを通して身に付けます。

3) 情報技能検定試験等の結果による単位認定について

●「情報基礎」の単位認定条件

* 以下の A 群・B 群それぞれから 1 以上、合わせて 2 以上の資格・検定を取得

A 群

- ・全商情報処理検定ビジネス情報部門 2 級
- ・全商情報処理検定ビジネス情報部門 1 級

B 群

- ・情報検定 (J 検) 情報デザイン試験 初級
- ・情報検定 (J 検) 情報デザイン試験 上級
- ・情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 4 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 3 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 準 2 級
- ・ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 2 級

●「情報処理」の単位認定条件

以下のいずれかの資格・検定を取得

* IC3 (GS5 と GS4 どちらのバージョンでも可) の「キー アプリケーションズ」科目

* 情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級 + 2 級

* 日商 PC 検定 文書作成 3 級 + データ活用 3 級 + プレゼン資料作成 3 級

* 以下の A 群・B 群・C 群それぞれから 1 以上、合わせて 3 以上の資格・検定

A 群

- ・全商情報処理検定 3 級
- ・全商情報処理検定 2 級ビジネス情報部門
- ・全商情報処理検定 1 級ビジネス情報部門
- ・MOS Excel スペシャリスト
- ・MOS Excel エキスパート
- ・日商 PC 検定 データ活用 3 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 2 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 1 級

B 群

- ・MOS Word スペシャリスト
- ・MOS Word エキスパート
- ・日商 PC 検定 文書作成 3 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 2 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 1 級

C 群

- ・MOS PowerPoint
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 3 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 2 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 1 級

備考: MOS の「バージョン」はいずれでも可。

②英語

1) 「英語 A」「英語 B」

- ・「英語 A」は Listening & Speaking を、「英語 B」は Reading & Writing を学びます。
- ・「英語 A」は外国人教員が担当し、「英語 B」は日本人教員が担当します。
- ・いずれも 1 年間で完結する通年科目です。
- ・入学時に実施されるプレイスメントテストによりレベルが決定されます。

2) 英語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

【条件】

- ・プレイスメントテストで 620 点以上のスコアを取得した学生で、英語技能検定試験等の結果が次の①～④のいずれかに該当した場合、「英語 A」及び「英語 B」の単位を認定します（履修中も認定）。
 - ① TOEIC 700 点以上を取得
 - ② TOEFL 68 点 (iBT) 以上を取得
 - ③ 実用英語技能検定準一級を取得
 - ④ IELTS 5.5 以上を取得

3) 「アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)」「アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)」「アドバンスト英語 C (TOEIC)」

- ・「英語 A」「英語 B」で学んだことをベースに、2 年次以上で履修する科目で、1 年間で完結する通年科目です。効果的な学修のために、以下のような前提条件があります。

科目名	履修条件	備考
アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)	英語 A を修得済みであること	
アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)	英語 B を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 B との同時履修可
アドバンスト英語 C (TOEIC)	英語 A を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 A との同時履修可

※アドバンスト英語 C (TOEIC) は、クラスごとに到達目標が定められています。

③初習外国語

1) 「フランス語」「中国語」「ドイツ語」

- ・それぞれ、履修の段階に応じてⅠ（入門）→Ⅱ（表現）→応用（総合）と進みます。
- ・「Ⅰ（入門）」と「Ⅱ（表現）」は1年次から履修することができ、週2回の授業を受け、半期で完結します。
- ・「応用（総合）」は2年次から履修することができ、週1回の授業を受け、1年間で完結します。履修条件は以下の通りです。

科目名	履修条件	備考
フランス語Ⅱ（表現） 中国語Ⅱ（表現） ドイツ語Ⅱ（表現）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。	Ⅰ（入門）を履修登録すると、後期の同曜日・時限にⅡ（表現）が自動で履修登録されます。Ⅰ（入門）と別曜日・別時限の（表現）を履修することはできません。
応用フランス語（総合） 応用中国語（総合） 応用ドイツ語（総合）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。 Ⅱ（表現）を修得済みまたは履修中であること	以下の応用〇〇語の履修パターンも参照してください。Ⅱ（表現）と同時履修の場合、Ⅱ（表現）が修得できなかった場合は、左記科目の履修は削除されます。

【応用〇〇語】については、以下のパターンが履修条件になります。
履修条件パターン以外で履修した場合は、削除されますので注意してください。

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
入門	表現	応用（総合）	
入門	（入門）	表現	応用（総合）
		応用（総合）	

- ・中国語Ⅰには「特別クラス」が設けられています。教養教育科目を履修した後も、さらに学び続けたいと考える学生を対象としたクラスです。詳細はシラバスを確認しましょう。
- ・2年次に初習外国語を履修する人は、前期（入門）→後期（表現）の順で履修してください。クラスは履修できるところを選択してください。（表現）の自動登録はされませんので、自分で同一のクラスを登録してください。
- ・フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、ドイツ語Ⅰは、（入門）のみを履修する人のために、後期にも（入門）クラスが開講されます。（入門）のみを履修する人は、後期開講の（入門）をお勧めします。
- ・前期の（入門）を履修登録後、後期に登録された（表現）の履修を取り消したい場合は、教務課で手続きをとって下さい。

2) 外国語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・ 下記のいずれかに該当し、履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

外国語技能検定試験等		単位認定を行う科目
実用フランス語技能検定試験	3級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	準2級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
DELF	A1	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	A2	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
中国語検定	3級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	2級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
HSK	4級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	※5級：180点以上 ※6級：180点以上	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
ドイツ語検定	3級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現）
	2級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現） 応用ドイツ語（総合）

※ HSKについては、2012年以前（旧制度）において、5級もしくは6級を合格した者については、審査対象者とみなす。

④ 人間を理解するための教養・社会を理解するための教養・自然を理解するための教養

- ・ 人文、社会、自然の幅広い領域に関する多様な科目が開設されています。全ての科目は半期で完結します。科目の内容（同一科目で複数クラス開講される場合はクラスごと）を共立シラバスで十分確認してから履修する科目を決めてください。
- ・ 「自己開発」は、学生が自らの意志において、自己開発、自己啓発のために積極的に起こした活動（海外研修、インターンシップなど）を評価し、単位を認定するものです。実際の単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び全学共通教育委員会が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳しくは、共立シラバスをご覧ください。

⑤身体と健康を管理するための教養

1)「健康スポーツ実習 A」

- ・基礎的な運動技術や知識の習得を図り、日常生活に必要な体力と健康に関する運動の必要性及び役割を学びます。活動を通してコミュニケーション能力の向上を図り、人間関係力を高めます。生涯にわたって運動に親しむ態度を身につけます。

2)「健康スポーツ実習 B」

- ・自分に適した運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、多様な運動技術や体力の向上を目指した活動を行います。

⑥キャリアを創造するための教養

- ・「自律と努力コア」科目で身に付けた知識や技能、他者との関係の中で一定の役割を果たしていく力を基盤にした、自らのキャリアや現代における「女性の自立」の理解を目標とした科目群です。

(3) 協働とリーダーシップコア

①現代社会の諸課題の解決

- ・「自律と努力コア」で身に付けた学修技法と「創造とキャリアコア」で身に付けた知識を活用して、現代社会における諸課題に関する課題解決を学ぶ授業です。

②課題解決実践演習（教養総合ワークショップ A・B）

- ・課題を設定し、それに対する課題解決を学生自身が考えることによって、実践的な課題解決力を身に付けるアクティブラーニング型の科目です。

③リーダーシップ開発（ワークショップファシリテーション）

- ・「現代社会の諸課題の解決」や「課題解決実践演習」の単位を修得した学生が、そこで身に付けた能力を基盤に、課題解決型授業のラーニングアシスタント（LA）として授業を補助することにより、単位が認定される科目です。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、それぞれのコースの教育課程に従って設けられています。なお、各コースの共通科目として「リテラシー基礎」「カルチャー」「キャリアサポート」があります。

4. 卒業の要件

1. 文科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
2. 文科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（文科）の学位が与えられます。
3. 1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。
4. 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

区分		コース		英語コース		心理学コース	
		日本文学・表現コース					
教養教育科目	必修科目	2	16	2	16	2	16
	選択必修科目	4		4		4	
	選択科目	10		10		10	
専門教育科目	必修科目	14	46	18	46	12	46
	選択必修科目	18		17		16	
	選択科目	14		11		18	
合計		62		62		62	

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から決められた単位数を取得しなければならない科目
選択科目	各自の自由意志に基づいて選択履修する科目

5. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

- 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。
 必修科目……………1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。
 選択必修科目…2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。
 選択科目……………空欄になっています。
- 開講期間の表示

記号	記号の意味
無印	半期（前期または後期）開講
★	通年開講

教育課程（カリキュラム）

教養教育科目（各コース共通）

※事前貼り付け

		授業科目	年次	単位	卒業要件
努力 自立と コア	自立・自活のための基礎科目	基礎ゼミナール ※	1	1	1
		論理的思考・文章表現 ※	1	1	1
		ライフプランと自己実現 ※	1	2	
		課題解決ワークショップ	1	1	
情報リテラシー	情報基礎	1	2		
	情報処理	1	2		
	情報の分析と活用 A	1・2	2		
	情報の分析と活用 B	1・2	2		
創造と キャリア コア	英語	★英語 A（リスニング・スピーキング）※	1	2	2
		★英語 B（リーディング・ライティング）	1	2	
		★アドバンスト英語 A（ビジネス口頭表現）	2	2	
		★アドバンスト英語 B（ビジネス文章表現）	2	2	
		★アドバンスト英語 C（TOEIC）	2	2	
	初習外国語	フランス語 I（入門）	1	2	
		フランス語 II（表現）	1	2	
		★応用フランス語（総合）	2	2	
		中国語 I（入門）	1	2	
		中国語 II（表現）	1	2	
★応用中国語（総合）		2	2		
ドイツ語 I（入門）		1	2		
ドイツ語 II（表現）		1	2		
★応用ドイツ語（総合）		2	2		
★コリア語 I（入門）	1	2			
★コリア語 II（表現）	1	2			

（次ページへ続く→）

(←前ページから)

		授業科目	年次	単位	卒業要件	
創造とキャリアコア	初習外国語	★スペイン語Ⅰ（入門）	1	2	2	
		★スペイン語Ⅱ（表現）	1	2		
		★イタリア語	1	2		
		★アラビア語	1	2		
		★基礎日本語（留学生対象）	1・2	2		
		★応用日本語（留学生対象）	1・2	2		
	人間を理解するための教養	日本の歴史を学ぶ	1・2	2		
		世界の歴史を学ぶ	1・2	2		
		人間と地理を学ぶ	1・2	2		
		文学をひらく	1・2	2		
		芸術をひらく	1・2	2		
		哲学とは何か	1・2	2		
		心理を学ぶ	1・2	2		
	社会を理解するための教養	自己開発	1・2	2		
		法律を学ぶ（日本国憲法）	1・2	2		
		法律を学ぶ（概論）	1・2	2		
		政治を学ぶ	1・2	2		
		倫理学とは何か	1・2	2		
		国際関係を学ぶ	1・2	2		
		地域社会と家族を学ぶ	1・2	2		
		経済を学ぶ	1・2	2		
	自然を理解するための教養	社会を学ぶ	1・2	2		
		自然と地理を学ぶ	1・2	2		
		数学への招待	1・2	2		
		生物学への招待	1・2	2		
		物理学への招待	1・2	2		
	身体と健康を管理するための教養	化学への招待	1・2	2		
		健康スポーツ実習 A	1・2	1		
	キャリアを創造するための教養	健康スポーツ実習 B	1・2	1		
		企業と社会の仕組み	2	2		
		マーケティング	2	2		
	リーダーシップコア	現代社会の諸課題の解決	女性生き方と社会	2		2
現代社会の諸課題（経済・産業）			2	2		
現代社会の諸課題（環境・科学）			2	2		
現代社会の諸課題（文化・芸術）			2	2		
現代社会の諸課題（生活・地域）			2	2		
課題解決実践演習		現代社会の諸課題（メディア・表現）	2	2		
		★教養総合ワークショップ A	1・2	4		
リーダーシップ開発		★教養総合ワークショップ B	2	4		
ワークショップファシリテーション					2	2
必修科目					2	
選択必修科目					4	
上記全科目より					10	
計					16	

文科

専門教育科目（日本文学・表現コース）

区分	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
基礎 リテラシー	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	コミュニケーション論	1・2	2	2	
	伝える技術	1・2	2		
リテラシー	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	2	
	ことばの仕組みⅡ	1・2	2		
	現代のことばⅠ	1・2	2	2	
	現代のことばⅡ	1・2	2		
リテラチャー	古典文学を読むⅠ	1	2	6	
	古典文学を読むⅡ	1	2		
	近代現代文学を読むⅠ	1	2		
	近代現代文学を読むⅡ	1	2		
	古典文学の研究Ⅰ	2	2	6	
	古典文学の研究Ⅱ	2	2		
	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2		
	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2		
	★ 日本文学の歴史	1・2	4	4	
	★ 文学とことばのセミナー	1	2	2	
	★ 文学とことばの卒業セミナー	2	4	4	
クリエイティブ	児童文学	1・2	2		
	映画・演劇論	1・2	2		
	サブカルチャー論	1・2	2		
	アニメの物語学	1・2	2		
	文学創作演習	1・2	2		
カルチャー	伝統文化論	1・2	2	文科共通科目	
	地域文化論	1・2	2		
	こども文化論	1・2	2		
	ジェンダー論	1・2	2		
	映像メディア論	1・2	2		
	出版メディア論	1・2	2		
	環境文化論	1・2	2		
	からだと健康	1・2	2		
東京学	1・2	2			
サキポータル	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2	文科共通科目	
	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	漢字を学ぶ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
	キャリアアクティブワーク	2	2		
	キャリアデザイン演習	1	2		2
上記専門科目より 14 単位 (他学科・他コース開放科目 8 単位を含む・注)				14	

★通年科目

専門教育科目（英語コース）

区分	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
リテラシー基礎	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	コミュニケーション論	1・2	2		
	伝える技術	1・2	2		
4 Skills	Reading I	1	1	1	
	Writing I	1	1	1	
	Listening I	1	1	1	
	Oral English I	1	1	1	
	Reading II	1	1	1	
	Writing II	1	1	1	
	Listening II	1	1	1	
	Oral English II	1	1	1	
	English for Special Purposes A I	2	1	4	
	English for Special Purposes B I	2	1		
	English for Special Purposes C I	2	1		
	English for Special Purposes D I	2	1		
	English for Special Purposes A II	2	1		
	English for Special Purposes B II	2	1		
English for Special Purposes C II	2	1			
English for Special Purposes D II	2	1			
Language & Literature	★ 英文法	1	2	2	
	★ 英語音声学	1	2		
	★ 英語学概論	1・2	4	4	
	★ 英米文学概論	1・2	4		
	英語学演習	2	1	3	
	英米文学演習	2	1		
	英語学研究	2	2		
	英米文学研究	2	2		
Business Skills	★ TOEIC 演習 I	1	2	2	
	★ TOEIC 演習 II	2	2		
	News English I	1・2	1	4	
	News English II	1・2	1		
	Business English I	1・2	1		
	Business English II	1・2	1		
	通訳法 I	1・2	1		
	通訳法 II	1・2	1		
	翻訳法 I	1・2	1		
	翻訳法 II	1・2	1		
★ 卒業セミナー	2	4	4		

★通年科目

(次ページへ続く→)

文科

(←前ページから)

区分	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
カルチャー	伝統文化論	1・2	2		文科共通科目
	地域文化論	1・2	2		
	こども文化論	1・2	2		
	ジェンダー論	1・2	2		
	映像メディア論	1・2	2		
	出版メディア論	1・2	2		
	環境文化論	1・2	2		
	からだと健康	1・2	2		
	東京学	1・2	2		
キャリアサポート	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2		文科共通科目
	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	漢字を学ぶ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
	キャリアアクティブワーク	2	2		
	キャリアデザイン演習	1	2		
上記専門科目より 11 単位 (他学科・他コース開放科目 6 単位を含む・注)				11	

★通年科目

専門教育科目（心理学コース）

区分	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
基礎 リテラシー	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	コミュニケーション論	1・2	2	2	
	伝える技術	1・2	2		
自分を知る	自己開発トレーニング	1	2	2	
心理学の基礎を学ぶ	★心理学概論	1	4	4	Iを履修していることが のぞましい。
	心理データ解析演習（SPSS）	1	2	8	
	発達心理学Ⅰ	1・2	2		
	発達心理学Ⅱ	1・2	2		
	社会心理学	1・2	2		
	臨床心理学Ⅰ	1・2	2		
	臨床心理学Ⅱ	1・2	2		
	健康心理学	1・2	2		
	カウンセリング論	1・2	2		
	教育心理学	1・2	2		
	認知心理学	1・2	2		
人間を知る・学ぶ	コミュニケーション心理	2	2	4	
	こころと行動	2	2		
	性格とは何か	2	2		
	消費者の心理	1・2	2	2	
	アートと心理	1・2	2		
	音楽とこころ	1・2	2		
	文学に見る行動心理	1・2	2		
	★心理学卒業演習	2	2	2	
カルチャー	伝統文化論	1・2	2	文科共通科目	
	地域文化論	1・2	2		
	こども文化論	1・2	2		
	ジェンダー論	1・2	2		
	映像メディア論	1・2	2		
	出版メディア論	1・2	2		
	環境文化論	1・2	2		
	からだと健康	1・2	2		
	東京学	1・2	2		
キャリア サポート	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2	文科共通科目	
	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	漢字を学ぶ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
	キャリアアクティブワーク	2	2		
	キャリアデザイン演習	1	2		2
上記専門科目より 18 単位 (他学科・他コース開放科目 8 単位を含む・注)				18	

★通年科目

文科

他コース開放科目

専攻	授 業 科 目	年 次	単 位	備 考
日本文学・表現コース	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	
	ことばの仕組みⅡ	1・2	2	
	現代のことばⅠ	1・2	2	
	現代のことばⅡ	1・2	2	
	古典文学を読むⅠ	1	2	
	古典文学を読むⅡ	1	2	
	近代現代文学を読むⅠ	1	2	
	近代現代文学を読むⅡ	1	2	
	古典文学の研究Ⅰ	2	2	
	古典文学の研究Ⅱ	2	2	
	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2	
	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2	
	★日本文学の歴史	1・2	4	
	児童文学	1・2	2	
	映画・演劇論	1・2	2	
	サブカルチャー論	1・2	2	
	アニメの物語学	1・2	2	
文学創作演習	1・2	2		
英語コース	English for Special Purposes AⅠ	2	1	*英語コースの科目については人数制限をする場合がある。
	English for Special Purposes BⅠ	2	1	
	English for Special Purposes CⅠ	2	1	
	English for Special Purposes DⅠ	2	1	
	English for Special Purposes AⅡ	2	1	
	English for Special Purposes BⅡ	2	1	
	English for Special Purposes CⅡ	2	1	
	English for Special Purposes DⅡ	2	1	
	★英文法	1	2	
	★英語音声学	1	2	
	★英語学概論	1・2	4	
	★英米文学概論	1・2	4	
	英語学演習	2	1	
	英米文学演習	2	1	
	英語学研究	2	2	
	英米文学研究	2	2	
	News EnglishⅠ	1・2	1	
	News EnglishⅡ	1・2	1	
	Business EnglishⅠ	1・2	1	
	Business EnglishⅡ	1・2	1	
通訳法Ⅰ	1・2	1		
通訳法Ⅱ	1・2	1		
翻訳法Ⅰ	1・2	1		
翻訳法Ⅱ	1・2	1		
心理学コース	発達心理学Ⅰ	1・2	2	Ⅰを履修していることがのぞましい。
	発達心理学Ⅱ	1・2	2	
	社会心理学	1・2	2	
	臨床心理学Ⅰ	1・2	2	
	臨床心理学Ⅱ	1・2	2	
	健康心理学	1・2	2	
	カウンセリング論	1・2	2	
	教育心理学	1・2	2	
	認知心理学	1・2	2	
	コミュニケーション心理	2	2	
	こころと行動	2	2	
	性格とは何か	2	2	
	消費者の心理	1・2	2	
	アートと心理	1・2	2	
	音楽とこころ	1・2	2	
文学に見る行動心理	1・2	2		

★共立女子短期大学文科 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー	<p>文科は、本科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識・技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。</p> <p>(1) 社会に広く貢献する自立した女性として求められる基礎的な教養として、日本の文学・文化、心理学、異文化等への一定の知識を身に付けている。また、理解する力を身に付け、それらの知識を他者に伝える能力を修得している。(知識・理解)</p> <p>(2) 社会人として求められる文章表現の技術を修得している。他者の意見を聞きかつ自らの考えを正確に伝えられるコミュニケーションスキルを身に付けている。また、一定レベルの英語によるコミュニケーションの力を修得している。(技能)</p> <p>(3) 文学、文化、英語、人間の心理等のそれぞれの分野を通して、そこから自分なりのテーマを見いだす問題意識や思考力を修得し、そのテーマを表現する力を身に付けている。(思考・判断・表現)</p> <p>(4) 他人を気遣うやさしさを失わず、自立した人間として成長するための積極的な学修への意欲を持っている。(関心・意欲・態度)</p>						
カリキュラム・ポリシー	<p>文科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識・技能などを学生に修得させるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。</p> <p>教育課程編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。</p> <table border="1" data-bbox="215 537 1441 1635"> <thead> <tr> <th data-bbox="215 537 1013 571">教育内容</th> <th data-bbox="1013 537 1252 571">教育方法</th> <th data-bbox="1252 537 1441 571">学修成果の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="215 571 1013 1635"> <p>【教養教育科目】 自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。 大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。 専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。 新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。 現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。 他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を育成する。 専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を得るための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】 (1) 文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースに沿って、体系的・順次性を踏まえて科目を配置する。 (2) 各コース共通の科目群として、文章表現力、コミュニケーション能力の養成を目的とした「リテラシー基礎」、豊かな文化的教養の養成を目的とした「カルチャー科目」、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す「キャリアサポート科目」の科目群を配置する。 (3) 日本文学・表現コースでは、(2)の共通の科目群のほか、文章表現を重視し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学への理解を深め、言葉の仕組などを身に付ける「リテラチャー」、児童文学、映画、演劇論などから小説の創作手法を身に付ける「クリエイイト」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (4) 英語コースでは、(2)の共通の科目群のほか、「読む、書く、聞く、話す」の英語運用能力の4つのスキルを身に付けるための「4 Skills」、英語の分析的な研究、英語文学作品の鑑賞を通して英語の知識のほか幅広い教養を身に付けるための「Language & Literature」、英語通訳・翻訳など社会で役立つ技術の修得やTOEIC500点以上を目指す「Business Skills」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (5) 心理学コースでは、(2)の共通の科目群のほか、自分を知ることで自分を表現する力を養う「自分を知る」、心理学分野の基礎（発達心理、臨床心理、教育心理、カウンセリングなど）を体系的に学ぶ「心理学の基礎を学ぶ」、その基礎の応用（コミュニケーション心理、消費者心理など）を身に付ける「人間を知る・学ぶ」の科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業演習」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (6) 文科と生活科学科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学共通講座（14テーマ）」を配置し、各テーマに属する科目（教養教育科目、両学科専門科目）を受講することで、その領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p> </td> <td data-bbox="1013 571 1252 1635"> <p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、判断力、表現力を養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p> </td> <td data-bbox="1252 571 1441 1635"> <p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイズメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち24単位以上を修得していることを条件とする。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	教育内容	教育方法	学修成果の評価	<p>【教養教育科目】 自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。 大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。 専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。 新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。 現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。 他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を育成する。 専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を得るための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】 (1) 文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースに沿って、体系的・順次性を踏まえて科目を配置する。 (2) 各コース共通の科目群として、文章表現力、コミュニケーション能力の養成を目的とした「リテラシー基礎」、豊かな文化的教養の養成を目的とした「カルチャー科目」、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す「キャリアサポート科目」の科目群を配置する。 (3) 日本文学・表現コースでは、(2)の共通の科目群のほか、文章表現を重視し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学への理解を深め、言葉の仕組などを身に付ける「リテラチャー」、児童文学、映画、演劇論などから小説の創作手法を身に付ける「クリエイイト」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (4) 英語コースでは、(2)の共通の科目群のほか、「読む、書く、聞く、話す」の英語運用能力の4つのスキルを身に付けるための「4 Skills」、英語の分析的な研究、英語文学作品の鑑賞を通して英語の知識のほか幅広い教養を身に付けるための「Language & Literature」、英語通訳・翻訳など社会で役立つ技術の修得やTOEIC500点以上を目指す「Business Skills」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (5) 心理学コースでは、(2)の共通の科目群のほか、自分を知ることで自分を表現する力を養う「自分を知る」、心理学分野の基礎（発達心理、臨床心理、教育心理、カウンセリングなど）を体系的に学ぶ「心理学の基礎を学ぶ」、その基礎の応用（コミュニケーション心理、消費者心理など）を身に付ける「人間を知る・学ぶ」の科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業演習」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (6) 文科と生活科学科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学共通講座（14テーマ）」を配置し、各テーマに属する科目（教養教育科目、両学科専門科目）を受講することで、その領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p>	<p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、判断力、表現力を養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p>	<p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイズメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち24単位以上を修得していることを条件とする。</p>
教育内容	教育方法	学修成果の評価					
<p>【教養教育科目】 自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。 大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。 専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。 新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。 現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。 他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を育成する。 専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を得るための知識・技能を育成する。</p> <p>【専門教育科目】 (1) 文科の専門教育科目を学修するにあたって、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースに沿って、体系的・順次性を踏まえて科目を配置する。 (2) 各コース共通の科目群として、文章表現力、コミュニケーション能力の養成を目的とした「リテラシー基礎」、豊かな文化的教養の養成を目的とした「カルチャー科目」、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す「キャリアサポート科目」の科目群を配置する。 (3) 日本文学・表現コースでは、(2)の共通の科目群のほか、文章表現を重視し、現代社会の情報を的確に選択・活用する力を養う「リテラシー」、古典から近現代までの日本文学への理解を深め、言葉の仕組などを身に付ける「リテラチャー」、児童文学、映画、演劇論などから小説の創作手法を身に付ける「クリエイイト」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (4) 英語コースでは、(2)の共通の科目群のほか、「読む、書く、聞く、話す」の英語運用能力の4つのスキルを身に付けるための「4 Skills」、英語の分析的な研究、英語文学作品の鑑賞を通して英語の知識のほか幅広い教養を身に付けるための「Language & Literature」、英語通訳・翻訳など社会で役立つ技術の修得やTOEIC500点以上を目指す「Business Skills」の3つの科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業セミナー」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (5) 心理学コースでは、(2)の共通の科目群のほか、自分を知ることで自分を表現する力を養う「自分を知る」、心理学分野の基礎（発達心理、臨床心理、教育心理、カウンセリングなど）を体系的に学ぶ「心理学の基礎を学ぶ」、その基礎の応用（コミュニケーション心理、消費者心理など）を身に付ける「人間を知る・学ぶ」の科目群を体系的・順次性を踏まえて配置する。それぞれの学修で得られた課題を追求し、修得した専門的な知識・技能の成果を論述するために、必修科目として「卒業演習」を配置し、表現能力の更なる獲得を目指す。 (6) 文科と生活科学科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学共通講座（14テーマ）」を配置し、各テーマに属する科目（教養教育科目、両学科専門科目）を受講することで、その領域の問題意識を深め、考察力を育成する。</p>	<p>(1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。</p> <p>(2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。</p> <p>(3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。</p> <p>(4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。</p> <p>(5) 思考力、判断力、表現力を養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。</p> <p>(6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。</p> <p>(7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。</p>	<p>(1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。</p> <p>(2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。</p> <p>(3) 1年次において、年度初めのプレイズメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。</p> <p>(4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち24単位以上を修得していることを条件とする。</p>					
アドミッション・ポリシー	<p>文科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識・技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。</p> <p>(1) 高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)</p> <p>(2) 「国語」と「英語」に興味と学習意欲を持ち、聞く・話す・読む・書くという基礎的な技能を高めることに喜びを見出すことができる。また、数量的な思考力を養うために「数学」を幅広く学修していることより良い。(知識・技能)</p> <p>(3) 課題に対して多様なものの見方ができ、論理的に考える力を有し、授業を通して「自分」を認識できる思考力・判断力を持つ事ができる。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>(4) 他者との意思疎通をはかり、目的達成に向かって協働できるようなコミュニケーションの能力を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p> <p>(5) 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p> <p>(6) 将来にわたり、ことばとことばに対する深い理解を持つことを心がけ、自分と人の人生を大切にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p>						

■ 短期大学開放科目

短期大学開放科目とは、生活科学科と文科の学生が、両科の垣根を越えて、関心のある科目を履修し、所定の単位を専門科目の卒業要件（単位）に加えることができる制度です。また、年間 40 単位以内であれば、卒業要件に関わらず履修することもできます。是非、この制度を利用して、両学科の専門科目を幅広く学ぶことを期待します。

生活科学科 3コース：他コース・他学科科目として 12 単位まで卒業要件に含むことができる

文 科 日本文学・表現コース：他コース・他学科科目として 8 単位まで卒業要件に含むことができる
英語コース：他コース・他学科科目として 6 単位まで卒業要件に含むことができる
心理学コース：他コース・他学科科目として 8 単位まで卒業要件に含むことができる

短期大学開放科目（生活科学科専門教育科目：文科の学生対象）

専攻	授業科目	年次	単位	備考
コース共通	衣生活論	1・2	2	
	食生活論	1・2	2	
	住生活論	1・2	2	
	心の健康	1・2	2	
	キャリア実務入門	1	2	
メディア社会コース	メディア社会論	1	2	
	ソーシャルメディア論	1	2	
	ポップカルチャー論	1	2	
	サステイナブル社会論	2	2	
	メディアデザイン論	1	2	
	ユニバーサルデザイン論	2	2	
	メディア心理学	2	2	
生活デザインコース	生活デザイン論	1	2	
	プロダクトデザイン論	2	2	
	ファッションデザイン論	1	2	
	ファッションビジネス論	2	2	
	快適住環境論	1	2	
	インテリア構成論	2	2	
食・健康コース	調理学	1	2	
	フードコーディネート論	2	2	
	食物基礎科学	1	2	
	栄養学	1	2	
	女性と健康	2	2	
	食品学	1	2	
	食品衛生学	1	2	
	食品の消費と流通	2	2	

短期大学開放科目（文科専門教育科目：生活科学科の学生対象）

専攻	授 業 科 目	年 次	単 位	備 考
日本文学・表現コース	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	
	ことばの仕組みⅡ	1・2	2	
	現代のことばⅠ	1・2	2	
	現代のことばⅡ	1・2	2	
	古典文学を読むⅠ	1	2	
	古典文学を読むⅡ	1	2	
	近代現代文学を読むⅠ	1	2	
	近代現代文学を読むⅡ	1	2	
	古典文学の研究Ⅰ	2	2	
	古典文学の研究Ⅱ	2	2	
	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2	
	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2	
	★ 日本文学の歴史	1・2	4	
	児童文学	1・2	2	
	映画・演劇論	1・2	2	
	サブカルチャー論	1・2	2	
	アニメの物語学	1・2	2	
	文学創作演習	1・2	2	
東京学	1・2	2		
英語コース	English for Special Purposes AⅠ	2	1	
	English for Special Purposes BⅠ	2	1	
	English for Special Purposes CⅠ	2	1	
	English for Special Purposes DⅠ	2	1	
	English for Special Purposes AⅡ	2	1	
	English for Special Purposes BⅡ	2	1	
	English for Special Purposes CⅡ	2	1	
	English for Special Purposes DⅡ	2	1	
	★ 英文法	1	2	
	★ 英語音声学	1	2	
	★ 英語学概論	1・2	4	
	★ 英米文学概論	1・2	4	
	英語学演習	2	1	
	英米文学演習	2	1	
	英語学研究	2	2	
	英米文学研究	2	2	
	News EnglishⅠ	1・2	1	
	News EnglishⅡ	1・2	1	
	Business EnglishⅠ	1・2	1	
	Business EnglishⅡ	1・2	1	
通訳法Ⅰ	1・2	1		
通訳法Ⅱ	1・2	1		
翻訳法Ⅰ	1・2	1		
翻訳法Ⅱ	1・2	1		
心理学コース	発達心理学Ⅰ	1・2	2	
	発達心理学Ⅱ	1・2	2	
	社会心理学	1・2	2	
	臨床心理学Ⅰ	1・2	2	
	臨床心理学Ⅱ	1・2	2	
	健康心理学	1・2	2	
	カウンセリング論	1・2	2	
	教育心理学	1・2	2	
	認知心理学	1・2	2	
	コミュニケーション心理	2	2	
	ところと行動	2	2	
	性格とは何か	2	2	
	消費者の心理	1・2	2	
	アートと心理	1・2	2	
	音楽とところ	1・2	2	
	文学に見る行動心理	1・2	2	

*英語コースの科目については人数制限をする場合がある。

Iを履修していることがのぞましい。

Ⅱ 全学科に共通する事項

1. 学籍について

学籍とは、学生として身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続きを完了した者に、本学への入学が許可され、本学学生としての学籍が与えられます。在学中に本人の氏名・本籍地・現住所・保証人（外国人留学生は在日保証人）等の変更があった場合は、学生支援課にただちに届け出てください。

(1) 学籍番号は入学時に決定し、原則として在学中は変更しません。学校に提出する書類には、氏名とともに学籍番号を必ず記入することになっています。

(2) 学籍番号は次のような仕組みになっています。

例)

21	アルファベット	000	H = 生活科学科
入学年度	学部区分	個人番号	A = 文科

2. 学生証

(1) 学生証は、学生の身分を証明する重要なものです。常に携帯し、本学教職員の請求があった場合は呈示しなければなりません。学生証は、以下の場合に必ず必要になりますので、毎日必ず持参してください。

① 授業の出席情報の登録

② 試験を受ける際の身分確認

③ 各種証明書の交付

・ 証明書や学割証は、本館 2 階・3 号館ロビーに設置の証明書自動発行機より発行します。

④ 情報処理演習室における印刷物のプリントアウト

⑤ 図書館の利用

(2) 学生証は他人に貸したり、譲ったり、出席情報登録などにおける悪用その他の不正使用をしてはなりません。不正使用した場合、学則（第 60 条）に反したとして厳しく処分されます。また、紛失、盗難にあって悪用されないよう十分注意してください。卒業、退学等により学生としての身分が消滅した場合は、学生証を教務課に返却してください。

(3) 学生証の記載事項に変更があった場合、および学生証を紛失した場合はただちに教務課へ届け出てください。特に学外での紛失・盗難の場合は、悪用される危険性があるので、最寄りの警察にも届けておくようにしてください。個人情報が登録されている大変重要なものですから、卒業時まで大切に扱ってください。

3. 学籍異動

長期欠席・休学・退学する場合は、早めに担任または教務課に相談してください。

A 休学・復学（学則第34条、第35条）

- (1) 病気その他やむを得ない理由によって1学期以上就学できない場合は、保証人連署のうえ願い出て、休学の許可を得なければなりません（病気の場合は診断書を添付）。
- (2) 休学期間はその年度内とし、願出によって引き続き1年以内休学することができます。
- (3) 休学期間は卒業するまで通算して生活科学科と文科は2年を超えることはできません。
- (4) 休学期間は学則に定められている修業年限および在学年数に算入されません。
- (5) 休学期間が終了して再び就学を希望する場合は、保証人連署のうえ「復学願」を提出して許可を得なければなりません。復学の時期は学期の始めとします。

B 退学（学則第36条）

病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする場合は、保証人連署のうえ願い出て、許可を得なければなりません。ただし願い出た期日を含む学期の授業料等の学費を納入していなければなりません。

C 除籍（学則第38条の2）

次のいずれかに該当する場合は、教授会の議を経て除籍されます。

- (1) 学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない場合
- (2) 学則に定める在学年限を超えた場合
- (3) 学則に定める休学期間を超えた場合
- (4) 長期間にわたって行方不明の場合
- (5) 所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない場合

D 再入学（学則第38条）

退学した者または除籍となった者が2年以内に申し出て選考のうえ許可を得た場合は、再入学することができます。ただし、再入学の時期は学年の始めとします。

なお、在学年限を満たして退学または除籍となった場合は該当しません。

E 転学部・転学科・転専攻について

本学では学科相互間において選考のうえ、異動することができます。異動にあたっては同一年次で再度学修するなど2年間での卒業ができない場合もあります。毎年5月ごろ募集要項が完成します。詳細は教務課までご相談下さい。

4. 学費

- (1) 学費は、毎年下記の期限までに、保証人宛に郵送される振込み用紙により銀行に振り込んでください。授業料等の学費の納入期限は次のとおりです。

前期分	4月30日
後期分	10月20日

上記期限内に納入されない時は除籍の対象となり、学生としての身分を失うこととなります。不測の理由で期限までに納入できない場合は、教務課に「学費延納願」を提出し、許可された場合は納入期限を延長することができます。

ただし、延長することができる期限は、前期分は6月30日まで、後期分は12月31日までです。いずれも学費納入期限内に願い出た場合のみに、その理由により許可されます。

- (2) 学費納入済みの学期を過ぎて退学を願い出る場合は、4月30日までに「退学願」が提出された場合は3月31日に、10月20日までに提出された場合は9月20日にさかのぼって退学を許可します。ただし、前記期限を過ぎて願い出た場合は、除籍となります。なお、除籍期日は前年度の3月31日または当該年度の9月20日付けとなります。

納入額

	生活科学科	文科
入 学 金	150,000 円	150,000 円
授 業 料 (年額)	750,000 円	750,000 円
施設設備維持費(年額)	390,000 円	360,000 円
実験実習料(年額)	50,000 円	—
科目等履修登録料	16,000 円	16,000 円
科目等履修料(1単位につき)	12,000 円	12,000 円

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 2年次以降の納入金は、新入学者の納入金(入学金を除く。)と同額とする。
3. 最低在学年限を超過した学生の納入金は、当該学生の前年度納入金と同額とする。
4. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
5. 留年者の学費納入取り扱い基準
 - 卒業要件不足単位数が10単位以内は納入金の年額の4分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が11単位から25単位は納入金の年額の2分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額とする。
6. 再入学者の入学金は徴収しない。

◎高等教育の修学支援新制度について

高等教育の修学支援新制度は、2020年4月より始まった大学等が行う入学金・授業料の減免と日本学生支援機構の給付型奨学金を利用して、修学を支援する制度です。申請を検討している方は、学生支援課奨学金窓口あるいは教務課へご相談下さい。

5. 単位および授業期間

(1) 単位について

大学・短期大学は、高校と同じ単位制度を取っています。大学・短期大学での学修において、単位に応じて「必要な学修時間」の仕組みを必ず理解してください。

国の基準では『1単位は45時間の学修を必要とする』と決められています。単位を取得するためにどのくらいの学修時間が必要なのか、次の例で計算してみましょう。なお、大学の学修時間は慣習として1時間を45分として計算します。

【例】半期（前期もしくは後期）の講義科目=2単位

● 1単位=45時間の学修が必要 ⇒ 講義科目2単位=90時間=4,050分の学修が必要

授業内の学修時間		授業外の学修時間		必要な学修時間
1,400分（14回）	+	2,650分	=	4,050分
100分（1回）		189分（授業1回分）		授業+授業外

単位取得のためには、授業時間に加えて、授業外での学修が求められています。上記の2単位の講義科目例では週に3時間超の授業外学修時間が必要なことが分かりました。この授業外での学修は、事前学修・事後学修と言われ、各授業のシラバスにも、学修すべき内容が記載されています。自ら積極的に学修してください。

(2) 授業期間について

本学では学則第6条に示す通り、前期および後期の2学期にわけて実施しています

前期	4月1日～9月20日
後期	9月21日～3月31日

(3) 開講期間と科目の区分について

授業科目には、開講する期間に応じて次のような区分があります。

区 分	開 講 期 間
通年科目	年間を通して実施
半期科目	前期、または後期で完結
集中講義	短期間に集中して実施

6. 授 業

2021年度の授業方法は、「対面授業」を基本とします。なお、大学が教育上、効果があると認めた一部の科目については、「オンライン授業」を導入します。ただし、「オンライン授業」の形式は、**kyonet**（共立女子大学・共立女子短期大学教育ネットワークシステム）クラスプロファイルを使用した「オンデマンド型授業」とします。また、「オンライン授業」対象科目については、シラバス等で告知・周知することとします。

【新型コロナウイルス感染症の感染状況への対応】

上記の「授業方法」を原則とした上で、新型コロナウイルス感染状況によっては、三密を避ける等の対処に加え、授業の一部または全てを「オンライン授業」とする可能性があること、その対応を要請する可能性があることを予めご承知おきください。

（1）授業時間

平常の授業は、授業時間割表に従って次の時間で行なわれます。授業は通常1時限単位で行なわれますが、実験・実習科目等で1.5時限や2時限の授業もあります。

時限	時間
1時限	9：00～（9：50）～10：40
2時限	11：00～（11：50）～12：40
3時限	13：30～（14：20）～15：10
4時限	15：30～（16：20）～17：10
5時限	17：30～（18：20）～19：10

（2）休講・補講

授業担当者がやむを得ない理由で授業を休講する場合は、**kyonet**より伝達します。休講情報がなく、始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課に連絡して、その指示に従ってください。

授業が休講となった場合、補講を行なうことになっています。補講は主として土曜日の午後または補講調整日に行ないます。

(3) 授業への出席と遅刻・早退・欠席の取扱い

《授業への出席》

- ・授業には必ず出席してください。単位を修得するためには、授業に全て出席することが前提となります。
- ・授業に出席したら、出席情報登録システムのカードリーダー（教室のドア付近に設置）に学生証を当ててください。出席の情報は、授業担当者が出席情報を正しく把握するために使用します。
- ・カードリーダーは、教室、演習室、実験・実習室のドア付近にあります。100人以上収容の教室には2つ取り付けてあります。
- ・出席情報登録システムへの「出席」としての登録は、授業開始時刻10分前から授業開始時刻までです。
（例）1限の場合 8:50～9:00
- ・自身の出席情報は、通称 **kyonet** で確認することができます。
- ・授業によっては、カードリーダーによる出席情報の登録ができない場合があります。その場合は、授業担当者の指示に従ってください。
- ・学生証を忘れた場合は、その旨を直接授業担当者へ申し出てください。

《遅刻・早退》

- ・授業開始時刻から20分を経過するまでは遅刻の扱いとなります。
- ・出席情報登録システムへの「遅刻」としての登録は、授業開始時刻1分後から20分を経過する前までです。これを過ぎると「受付終了」と表示されます。
（例）1限の場合 9:01～9:19
- ・「受付終了」後は、欠席扱いとなりますが、必ずカードリーダーに学生証を当ててください。学生証を当てた時刻が記録されます。
- ・電車などの遅延で遅刻または受付終了となった場合、授業後すぐに授業担当者へ申し出てください（遅延証明書があれば、裏面に学籍番号と名前を記入して提出するようにしてください。なお、取り扱いは授業担当者に任されています）。
- ・止むを得ず授業を早退する場合は授業担当者にその旨を伝えてください。
- ・遅刻・早退は3回をもって欠席1回に換算されます。

《欠席》

- ・大学の試験規程により「当該授業科目の出席時間数が原則として授業総時間数の2/3以上あること」が受験資格の条件の一つとなっています。
- ・大学では公欠の取り扱いはありません。いかなる理由（忌引き、実習、就職活動等）でも欠席を出席とすることはしません。ただし以下の届け出に関しては、試験の受験資格に抵触する場合に授業担当者によって配慮されることがあります。

○病気やけがなどで一週間以上続けて欠席する場合

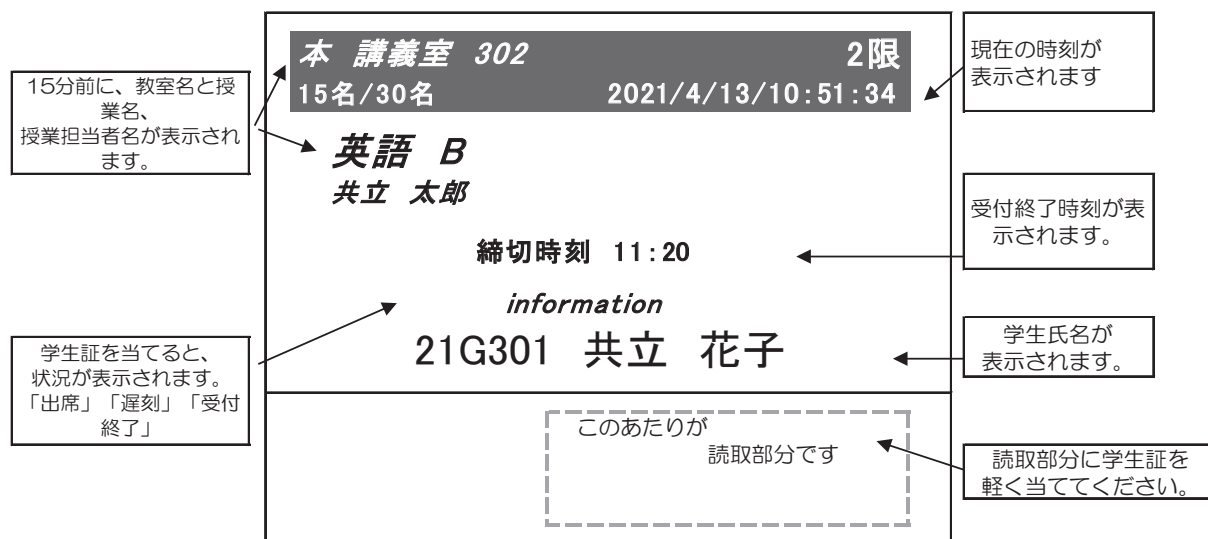
教務課にある所定の用紙「欠席届」による届け出が必要です。

病気やけがが治り、登校ができるようになってから提出してください。

試験の日程が迫っている場合は、教務課にお問合せください。

○就職活動における欠席届

＜カードリーダーの画面と登録方法＞



★何度学生証を当ててもエラーが出る場合は、カードの不良、または正しく履修登録がされていない可能性があります。すぐに教務課で確認してください。

（４）緊急事態発生時の授業・試験等の取り扱い

緊急事態（天候・交通機関等）が発生した場合の授業・試験等の取り扱いは、**kyonet**、学内放送、ホームページ (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>) で伝達します。

停電などの非常時は Facebook、Twitter を含めて伝達します。

緊急時には上記の方法でかならずご確認ください。

台風接近時等の授業実施の対応について、「開講」または「休講」の通知を一日に 2 回、以下の通り周知することがあります。

通知内容	通知時間
「午前授業」（1・2 時限）の実施について または「終日休講」の実施について	本学ホームページにおいて午前 6 時 00 分までに周知、 kyonet にて午前 6 時 30 分までに通知
「午後授業」（3・4・5 時限）の実施について	午前 10 時 50 分までに

備考：①台風や大雪等、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合、また公共交通機関の計画運休等により授業実施が困難と予想される場合は、前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがあります。その場合は、前日の 20 時までには周知します。

②気象状況等の急変により、その他措置を行う場合は、その都度周知します。

7. 履修登録

履修登録とは

各自が作成した授業時間割をもとに、履修しようとする科目を届け出ることをいいます。

履修登録されていない科目は、授業を受けることも、また試験を受けて単位修得することもできません。

履修登録は、指定された期間に1年間に履修するすべての科目を、**kyonet**（共立女子大学・共立女子短期大学教育ネットワークシステム）の**Web**履修登録により行います。学内の情報演習室に設置されたパソコンやロビー等に設置されたインフォメーションPCから入力できる他、インターネットを利用できる環境でしたら自宅のパソコンやスマートフォンからも入力できます。

「**Web**履修登録」の詳細は、オリエンテーション期間中のガイダンスでお知らせします。

履修登録期間は、履修しようとする科目や所属する年次等によりあらかじめ指定されますので、期日内に履修登録を確定する必要があります。

履修登録の流れの手順に沿って、履修登録を行ってください。わからないことがあった場合は、教務課へ相談、またはオリエンテーション期間中の「履修相談」の時間を利用してください。

履修登録の流れ

<前期履修登録>

- ① オリエンテーション期間中の各ガイダンスに出席し、注意事項を確認します。
- ② 『履修ガイド』の<卒業に必要な最低単位数>と<カリキュラム表>を熟読します。
- ③ 必修科目や選択必修科目、選択科目を確認し、それぞれの配当年次を考慮しながら、卒業時までの履修計画をたてます。
- ④ 履修しようとする科目の授業内容を共立シラバスで確認します。
- ⑤ 履修しようとする科目の開講曜日・時限を **kyonet** またはホームページの時間割で確認します。
- ⑥ 前期・後期・通年各科目単位数の合計が履修上限単位内に収まるように、1年間の履修計画をたてます。（授業の予習・復習する時間を考えて、38～40単位を目安に計画することをおすすめします）
- ⑦ 履修しようとする科目の履修条件を確認します。
- ⑧ 各自が履修しようとする時間割を下書き用紙に書き出します。
必修・選択必修科目→選択科目の順に時間割に書き込みます。
必修・選択必修科目は、高学年に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、多くの科目を履修することのないように、配当年次で履修することをおすすめします。
- ⑨ **kyonet** の「学生時間割表」でクラス指定された授業を確認します。
（時限を重複して登録はできませんので、下書き用紙に書き出した時間割に変更が必要か確認し、計画を立て直してください。）
- ⑩ 履修しようとする「抽選登録」の科目を指定された期間中に **kyonet** で履修登録します。（抽選にもれた場合は、他の曜日・時限の科目を選択するか、次年度に履修してください。）
- ⑪ 指定された期間に **kyonet** でその他の1年間分の科目（前期だけでなく、後期・通年科目も）を履修登録します。
- ⑫ **kyonet** の「学生時間割表」で、再度登録した科目を確認し、必修科目など登録し忘れがないかチェックします。
- ⑬ 時間割が確定したら、テキスト販売一覧を見て、一覧に載っているテキストは、指定の期間内に指定の方法で購入します。一覧にない科目については、授業担当者に確認してください。
- ⑭ 授業開始4週目経過後（予定）の一定期間内に「履修中止期間」を設けています。履修を中止したい授業科目がある場合、アカデミックアドバイザー（P.59参照）に履修相談をし、認められた場合に中止できます。

<後期履修について> ※後期開講科目のみ対象

- ① 授業開始から4週目経過後（予定）に履修中止期間が設けられます。

履修登録上の注意

- (1) **1年間に履修登録できる単位の上限は原則として40単位までです。**ただし、2年次以降は前年度までの通算GPA3.0以上の学生については、履修指導の上、44単位まで認めます。
- ・認定単位（入学前既修得単位、本学が開設する認定科目の単位）はこの中に含まれません。
 - ・単位互換協定による授業も年間履修登録上限単位数に含まれます。
 - ・転学科した学生は上記年間履修登録上限単位数の適用となります。
 - ・後期に追加登録する場合、前期の不合格（D評価またはX評価）単位数も登録上限単位に含まれます。
 - ・履修中止にする場合、中止にした科目の単位数も履修登録上限単位に含まれます。
 - ・生活科学科－『チャレンジゼミナール』の単位は含みません。
2年次の後期には、通年科目を含めて4単位以上履修しなければいけません。
他コース・他学科科目も履修できますが、修得した単位は12単位を上限として専門教育科目選択科目に含めることができます。
転コースした者も上記上限単位が適用になります。
- (2) 授業によっては履修者数を制限したり、履修するクラスを指定する場合があります。原則として配当されている授業科目を履修してください。ことわりなく他のクラスを登録すると、履修を取り消されることがあります。
- (3) 上級年次配当の授業科目は履修できません。低年次に配当された科目であればいつでも履修可能です。
- (4) 登録した科目の中止は履修中止期間以外は認められません。
- (5) 単位を修得した授業科目は再度登録することはできません。
- (6) 登録した授業科目は放棄せず、履修して試験を受けてください。登録した科目を放棄したり、試験を受けなかった場合は、評価対象外（X）として不合格になります。
- (7) 履修した科目の評価がDまたはXの場合は、再度履修して試験に合格しなければ単位は与えられません。
- (8) 受講人数が制限されている実験・実習・演習科目は所属コースの学生の履修が優先されるため、他コースの学生は受講できない場合があります。
- ・生活科学科－実験・実習・演習科目は導入時の授業が大切なので、最初の2回分の授業を欠席した場合、受講できない場合があります。
- (9) 履修者が少ない授業科目は、他のクラスとの合併、もしくは休講となる場合があります。
- (10) 履修登録に関する変更がある場合は、オリエンテーション時に説明しますので、毎年必ずガイダンスに出席してください。

<共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度について>

本学は大学と短期大学間の単位互換協定を締結しています。

これにより所属する大学の学部・短期大学の学科にはない科目を相互に受講することができます。詳細は **kyonet** でお知らせします。

<千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度について>

千代田区キャンパスコンソは、千代田区内の徒歩圏にキャンパスを有する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学により、2018年4月1日に設立されたコンソーシアムです。千代田区（関係団体等を含む）、地域産業界等が、近接の立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請など多様なニーズに適切に対応することを目的としています。

上記協定を締結した大学・短期大学の授業を履修し、修得した科目は単位認定を行います。

履修を希望する学生は、教務課で手続きが必要です。詳細は、**kyonet**でお知らせします。

<担任（アカデミックアドバイザー）について>

本学には、担任（アカデミックアドバイザー）制度があります。担任（アカデミックアドバイザー）とは、履修方法や成績を向上させるための方法、進路に関する事など、学生生活全般について相談、アドバイスを行う専任教員のことです。各年次に最低一度は担任（アカデミックアドバイザー）との面談を実施しますが、面談以外にも学生生活を送るうえで必要な時にいつでも相談することができます。

<オフィスアワー>

本学ではオフィスアワーを定めています。オフィスアワーとは、教員が学生の訪問を受けるために研究室などあらかじめ指定した場所に待機している時間帯のことです。

履修に関することや進路、学生生活全般に関する質問・相談をすることが出来ます。各教員のオフィスアワーは、**kyonet**にて、確認してください。

なお、会議や出張等により在室できない場合もあります。

オフィスアワー以外の時間帯でも教員の研究室等を訪問することが出来ます。

8. 既修得単位の認定

他の短期大学または大学、高等専門学校、その他を卒業または中途退学し、新たに本学科の1年次に入学した場合、修得済みの単位を、生活科学科および文科は30単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定される場合があります。

認定を希望する学生は所定の期日までに教務課まで願い出てください。（入学前に準備する必要あり。「入学のしおり」参照）

9. 試 験

試験は学則にもとづき大学が学生に対して授業科目所定の課程修了を認定する方法です。試験に合格した場合は授業科目所定の単位を与えます。不合格の場合は再履修して、試験に合格しなければ単位は与えられません。

(1) 試験の方法

試験はそれぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・作品の制作・実技等によって行ないます。

(2) 試験の種類

試験の種類は次のとおりです。

種 類	内 容
平 常 試 験	授業担当者が学修の到達度を確認するために授業内で行う試験をいいます。
定 期 試 験	授業とは別に設けた定期試験期間に行う試験をいいます。定期試験期間は学年暦（kyonetの「リンク集」に掲載）に示しています。
追 試 験	病気その他やむを得ない理由で定期試験を欠席した学生のうち、所定の手続きをした者に対して行う試験です。
再 試 験	卒業期の学生で試験に不合格となり卒業できない者のうち、教授会の許可を得たものに対して行う試験です。
再 評 価 試 験	1年次で試験または追試験に不合格となった者に対して行う試験です。 (生活科学科のみ)

(3) 受験資格

受験資格は次の通りです。受験資格のない者が試験を受けても無効であり、単位は与えられません。

- (1) 当該科目の履修登録をしていること。
- (2) 出席時間数が実質授業総時間数の2/3以上あること。なお、遅刻、早退は3回をもって欠席1回に換算します。
- (3) 当該期の学費を納入していること。

(4) 追試験

- (1) 病気、交通機関の事故等による遅れやその他やむを得ない理由により定期試験を欠席する場合は、当該試験科目の**開始前に教務課**へ連絡してください。本人が連絡できない場合は、代理人（父母またはそれに代わる者、ただし友人は不可）でかまいません。
連絡先は「CAMPUS GUIDE」の窓口・手続き案内を参照してください。
- (2) 該当する科目の定期試験終了後5日以内（5日目が日曜日の場合は前日の土曜日正午まで）に**欠席理由を証明するもの**（病気で医師の診療を受けた場合は病院の領収書等）を添え、教務課に「追試験願」を提出してください。
- (3) 時間割の見間違い等、本人の怠慢、不注意による場合は、追試験を受けることができません。

- (4) 前期の定期試験の追試験は8月～9月に（通年の科目については実施しない場合もあります。）、後期定期試験の追試験は2月中に行ないます。
- (5) 追試験の成績は2割以内の範囲で減点されます。
- ※ 追試験の受験料は1科目につき2,000円です。

(5) 再試験

- (1) 再試験は卒業期学生を対象に行われるものです。原則として最終の試験の結果、卒業要件単位に達しない者のうち、卒業年度の不合格科目（D）の単位数が生活科学科は10単位、文科は12単位以内で、教授会の許可を得た者が受験することができます。
- (2) 出席不良、レポート未提出の理由で評価対象外（^{エックス}X）と判定された科目は再試験の対象となりません。
- (3) 再試験の受験が認められた場合は、2月中旬に教務課から連絡します。再試験は2月下旬に実施されます。
- (4) 受験する者は、教務課に「再試験願」を提出してください。
- (5) 再試験で合格した場合の評価は「C」になります。
- ※再試験の受験料は1科目につき3,000円です。

(6) 再評価試験（生活科学科）

- (1) 再評価試験は、試験、追試験を受けて、既修得単位数が16単位以上、20単位未満で、不合格科目（評価D）単位数が、既修得単位数とあわせて進級に必要な単位数以上である1年次の学生が受けることができます。
- (2) 受験できる科目数は、進級に必要な単位数までとします。
- (3) 再評価試験に対する追試験は行いません。
- (4) 受験する学生は、教務課に「再評価試験願」を提出して下さい。
- (5) 再評価試験で合格した場合の評価は、「C」になります。
- ※再評価試験の受験料は1科目につき、3,000円です。

夏休み等に海外旅行（研修）をする場合は、試験等と重ならないよう計画を立ててください。旅行等で試験を受けられない者に対して特別の試験や追試験の資格は与えられません。また、期末試験終了後の春休みに海外旅行（研修）をする場合は、オリエンテーション、履修登録に間に合うように注意してください。

(7) 試験中の不正行為

試験中、不正行為があった場合は学則により教授会の議を経て懲戒処分されます。

懲戒処分は、訓告、停学および懲戒処分としての退学とし、当該学生および保証人に対しその旨が通知されます。

懲戒となった学生は次の資格を失います。

- ①不正行為のあった科目の当該年度における受験資格
- ②諸資格に関する科目の履修登録および資格の申請

(8) レポートの提出

レポートの提出は、**kyonet**を使った**Web**提出のほか、紙による提出等があります。詳細については授業担当者の指示にしたがってください。

(9) 受験の際の注意事項

1. 試験場においてはすべて監督の指示に従い、これに反した場合は退場を命ぜられます。
2. 学生証は写真が見えるようにして通路側の机の上に置いてください。
学生証を携帯していない者は、受験が許可されないので、試験当日、学生証を忘れた場合は事前に教務課に申し出て「試験受験許可証」の交付を受けてください。
3. 筆記用具のみを机に出して、その他の物は袋・バッグ等に入れてください。
携帯電話等は電源を切ってください。
4. 受験中の私語や、物品の貸借は禁止です。
5. 受験した場合はどのような理由があっても答案用紙を提出してください。提出しない場合は不正行為に準じて処罰されます。
6. 試験場への入場は不可抗力による場合、30分以内の遅刻に限り認められます。ただし、試験時間は延長されません。30分以上遅刻した場合はただちに教務課に連絡してください。
7. 試験に関する連絡は時間割等発表後も変更する場合がありますので、注意してください。

(10) 成績

<評価>

履修した授業科目の評価は、試験の結果等によって判定され、合格した場合に科目所定の単位が与えられます。評価の基準は下記のとおりです。

合否	評価	点数	評価の基準	グレード・ポイント (GP)(※3)	成績証明書の記載
合格	S	100～90点	到達目標を超えたレベルを達成している	4.0	S
	A	89～80点	到達目標(※1)を達成している	3.0	A
	B	79～70点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	2.0	B
	C	69～60点	単位修得目標(※2)を達成している	1.0	C
不合格	D	59点以下	単位修得目標を達成できていない	0.0	記載されません
	X	受験資格なし、試験放棄、レポート未提出等		0.0	
合格	P	認定	単位認定の要件を満たしている	対象外	P

※1 到達目標…授業で扱う内容を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

※2 単位修得目標…授業を履修した学生が最低限身につける内容を示す目標です。到達目標を達成するにはさらなる学修を必要としている段階です。

※3 グレードポイント (GP) …各科目の成績をその評価に応じて5段階に分けてポイント化したものです。

- (1) 前期終了科目は後期授業開始前後に、通年科目と後期終了科目を含めた当該年度のすべての成績および GPA 値は **kyonet** で確認することができます。
- (2) 単位の修得について疑問のある場合は、指定された期間に教務課に申し出て確認してください。

<GPA>

本学では、学生の主体的な学習を支援し、その学習成果に関しては厳正な成績評価を行っています。さらに学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立つように、履修した全科目の成績の平均を数値で表したGPA（Grade Point Average/ グレード・ポイント・アベレージの略）を算出しています。高等学校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標となります。

このGPAは、学習の質を評価する成績評価の国際標準となっており、合格した科目だけではなく、不合格や受験不可の科目も成績算出対象となるのが大きな特徴のひとつです。したがって、学生には自分の履修に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

また、教員は学生の履修指導にGPAを活用します。履修指導以外にも、進学時・就職時の推薦基準や、奨学金支給等の参考資料として活用します。

(1) GPAの主な内容

GPAは、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。本学のGPAの算出式は下記に示すとおりです。

- ①履修登録科目の成績に応じて与えられた各科目のグレード・ポイントに、各科目の単位数をかけて合計します。
- ②①で得られた値を履修登録科目の総単位数で割り、四捨五入により小数点第一位まで表示したものがGPAとなります。

$$\frac{(\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + (\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{登録科目の総単位数 (「D」「X」の単位数も含む)}}$$

※「P（認定）」は、計算式に含まれません。

※不合格科目（D評価）や放棄科目（X評価）は、計算式に含まれます。

- ③GPAは **kyonet** の成績照会から確認できます。成績証明書には通算GPAが記載されます。

※GPA計算はGPA計算期日（前期は9月中旬、後期は2月中旬）までに確定した成績に基づいて計算されます。

④GPAの活用について

1) GPAが低い学生に対しては、次の対応を行います。

- a. 学期のGPAが1.4以下となった学生に対しては、本人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行います。
- b. 学期のGPAが2学期連続1.4以下を、または在学期間のうち、3学期分がそれ以下となった学生に対しては、本人および保証人（保護者等）を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行います。
- c. 学期のGPAが3学期連続1.4以下を、または在学期間のうち、4学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、成業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告する場合があります。

2) GPAが高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議の上、表彰を行うことがあります。

⑤履修中止制度について

履修登録をしたものの、授業内容が学修したいものと異なっていたり、授業を理解するための基礎知識が不足していることなどの理由により、履修を継続することが難しく、単位の修得が困難であると考えられる場合、不合格となることでGPAが下がることを回避するために、履修中止制度が設けられています。

履修中止は、授業開始4週目経過後に、本人が教務課に理由書を提出し、問題がない場合のみ履修中止ができ、科目の登録が取り消されます。

前期は、前期開講科目と通年科目、後期は、後期開講科目が履修中止の対象となります。ただし、必修科目および学部・学科で中止不可科目として指定した科目は履修中止対象外となります。

履修中止を行わず、学期途中で履修を放棄した場合は不合格となります。不合格後に履修中止を行うことはできません。

10. 進 級

生活科学科

1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。なお、既修得単位数が16単位以上の場合は再評価試験により、進級できる場合があります（詳細はP.61）。

文科

1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。

11. 海外留学・研修

(1) 海外留学

	「留学規程」による留学	「休学」による留学
種 類	(1)交換留学 (2)派遣留学 (3)一般留学 ①協定校・②提携校・③認定校 ※1	留学先の大学等は限定しません。
資 格	本学に1年以上在学し、留学する前年度までに30単位以上を修得した者 留学する前年度(応募時)に応募基準の語学力を取得する必要があります。	全学生(学則第34条の規定範囲内)に適用
手 続 き	(1)留学2ヵ月前までに書類を提出 「留学願」「留学計画書」「入学許可書」あるいは「受入許可書」「大学案内」等 (留学期間中に、許可された留学条件を変更する必要がある場合には、すみやかに教務課に連絡をとってください。) (2)帰国後1ヵ月以内に書類を提出 「帰国届」「学業成績証明書」「在学期間証明書」等	(1)留学1ヵ月前までに書類を提出 「休学願」 (2)帰国後、学期の始まる1ヵ月前までに書類を提出 「復学願」
期 間	原則として6ヵ月あるいは1年間 在学年数に算入する期間は1年間を限度とします。 <帰国後次年次へ進級※2>	6ヵ月から、延長も含め2年間許可されますが、その期間は進級止となります。 <帰国後も同年次>
継続履修	留学年度の前期に履修した授業科目を、留学期間(1年内)をはさみ、次年度後期に継続して履修することができます。 「継続履修願」(留学前に提出)	継続履修はできません。
単位認定	外国の大学等において修得した単位のうち、本学教授会が適当と認めたものは、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認めることができます。 「単位認定願」「履修した授業科目のシラバス」等	
留学中の本学への納入金	(1)授業料 交換留学 } 全額免除 派遣留学 } 一般留学 } (2)施設設備維持費 } 全額納入 (3)実験実習料 }	(1)在籍料 半期休学……………5万円 1年間休学……………10万円
本学奨学金	本学国際交流奨学金制度に応募ができます。	奨学金は受けられません。

・上記留学手続きは、教務課にて速やかに行ってください。

※1 <主な留学先> 詳細は本学国際交流・留学 Web サイトをご確認ください。

① 協定校

中国：中国人民大学、広東外語外貿大学

フランス：イナルコ(フランス国立東洋言語文化)大学

スイス：ジュネーブ大学

アメリカ合衆国：ペンシルベニア大学、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ

② 提携校

アメリカ合衆国：セントラルワシントン大学

イギリス：リーズ大学、オックスフォード・ブルックス大学、国際市民コレッジ(CfIC)

カナダ：ウィニペグ大学

③ 認定校

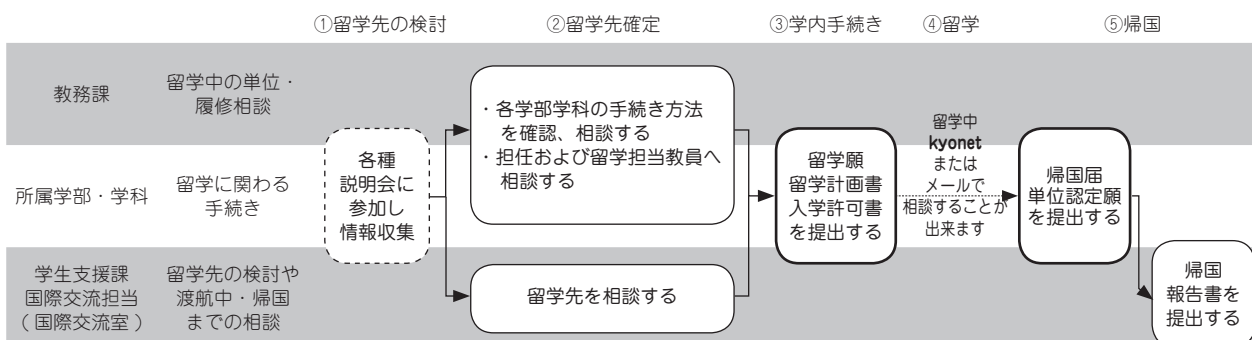
大学および大学付属の語学学校であることを基本的な要件とし、プログラム内容を勘案して決定します。認定手続には時間がかかりますので、十分に注意してください。

※2 帰国後の年次・履修単位については、留学前に教務課によく相談して計画してください。

・詳細は学生支援課国際交流担当(国際交流室)までお問合せください。

(2) 留学の手続きの流れ

<留学～帰国までの手続きフロー>



(3) 海外研修

海外研修は、夏季及び春季休暇中に海外の協定校等で行われる予定の本学主催の短期集中プログラムです。

1. 目的 外国語の修得と異文化体験
2. 研修地

	〈夏季〉 アメリカ	ハワイ大学 カピオラニ・コミュニティカレッジ (ハワイ)	
	フランス	アンジェ西部カトリック大学 (アンジェ)	
	〈春季〉 中国	広東外語外貿大学 (広州)	
	ニュージーランド	国立ワイカト大学 (ハミルトン)	
3. 研修期間

〈夏季〉	8月上旬から約3～4週間	〈春季〉 ニュージーランド	2月下旬～3月中旬
		中国	3月上旬～3月中旬
4. 研修内容 語学研修、アクティビティ
 宿泊先：学生寮またはホームステイ（研修先により異なります。詳細は学生支援課国際交流担当（国際交流室）までお問合せください。）
5. 単位認定 教養教育科目「自己開発」（2単位）が認定されます。但し単位認定には帰国後所定の申請が必要です。単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び全学共通教育委員会が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳細は、共立シラバスを参照してください。
 - ・スケジュールに耐えられる体力のない方、団体行動に適さないと大学が判断した場合は、研修開始直前あるいは開始後であっても参加をお断りすることがあります。
 - ・世界情勢その他の理由により研修を中止することもあります。また、上記2および3の内容を変更することがあります。
 - ・春季研修に参加した卒業期の学生については、単位は認定されません。

12. 全学共通副専攻制度

Major in Anything. Minor in Leadership.

(主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ)

所属する学部・科等の体系的にまとめられた教育課程に沿って学修する内容を主専攻と呼び、主専攻以外の分野の授業科目を体系的に学修する内容を副専攻と呼びます。教養教育について、以下に記した修了要件を満たすことで、副専攻（Leadership）の修得を証します。

(1) 全学共通副専攻制度の趣旨

本学の教養教育は、大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン）に掲げる「自律と努力」、「創造とキャリア」、「協働とリーダーシップ」を踏まえ、KWU ビジョンの基盤となる能力を養成することを目的に編成しています。科目区分は「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」に分かれています。その中で「協働とリーダーシップコア」は3つのコアの中での上位目標であるため、「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」の順序で履修年次にも配慮した体系的かつ階梯性のあるカリキュラムとなっています。

副専攻の名称は、上位目標となる「協働とリーダーシップコア」の目標が「他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う」としていることを踏まえ、「リーダーシップ」といたします。

(2) リーダーシップの意味

一般的に、リーダーシップというと「リーダーがグループをマネジメントする時に発揮するもの」と考えられ、この場合、命令の出し方と同義語となります。しかし、KWU ビジョンに掲げるリーダーシップは、リーダーというポジションではなく、メンバーであってもチームの成果を生み出すために、皆と目標を共有し、率先して動き、他者を巻き込み、助け合うことで、チームにポジティブな影響を与えていく力を発揮することと捉えております。詳細は、「協働とリーダーシップコア」の科目で学修します。

(3) 全学共通副専攻制度の修了要件

- ・「自律と努力コア」から「基礎ゼミナール」を含む2単位以上修得
- ・「創造とキャリアコア」から「英語 A」を含む8単位以上修得
- ・「協働とリーダーシップコア」から2単位以上修得

上記3点の条件を満たした上で、所属する学部・科等の教養教育の卒業要件を満たし、教養教育の人材養成目的を達成することを修了要件とします。なお、修了証明書の授与にあたっては、学生自身による「振り返り」を求め、これをもって授与とします。修了した学生は、「ディプロマ・サブリメント」*でその旨が証されます。

*「ディプロマ・サブリメント」とは、本学が授与する学位記の補足資料として、皆さんの学修成果や正課外活動を可視化する証明書です。

(4) 全学共通副専攻制度の履修から修了までの流れ

Step1	全学共通副専攻制度の修了要件を満たす。
Step2	「全学副専攻修了希望申請」を行う。
Step3	「振り返り」を行う。
Step4	「ディプロマ・サブリメント」により修了していることを確認する。

※「全学副専攻修了希望申請」「振り返り」「修了証明書の申請、発行、受領」についての詳細は、別途お知らせいたします。

13. 科目等履修

卒業したのち、在学中に履修できなかった科目を、科目等履修生として履修することができます。

- ・手続き場所：教務課
- ・出願期間：前期および後期授業開始前
- ・手続きに要する費用：科目等履修登録料＝16,000円 科目等履修料＝1単位につき12,000円
手続きを完了した者には、「科目等履修生証」を交付します。
- ・授業および試験に関しては正規の学生と同一の規程を適用します。
- ・科目によっては履修が認められないこともありますので、手続き時に確認してください。
- ・履修することができる授業科目の単位数は、30単位までです。
- ・履修した授業科目に出席し、試験（レポートを含む）を受けて合格した場合は、教授会の議を経て単位が与えられ、必要のある場合は単位取得証明書を発行します。
- ・短大在学中に学部で1・2年生に開講する科目を科目等履修生として受講し、単位を取得することもできます。詳細は教務課にお問合せください。

14. 編入学

短期大学等を卒業して4年制の大学に中途入学することを編入学といいます。

編入先の大学を卒業するには、卒業に必要な単位数から認定単位数（短大で修得した単位のうち編入学時に認められた単位数）を差し引いた残りの単位数を2年間（または3年間以上）で修得することになります。編入学はおよそ以下のように行なわれます。

共立女子大学へ編入学する場合

入試事務室が担当しています。学内の編入学制度には、「特別推薦編入学」と「一般編入学」があります。「試験要項」については、6月初旬に **kyonet** でご案内します。

1. 編入学することができる学部、学科、コース、専修

家政学部一被服学科 / 食物栄養学科（食物学専攻のみ） / 建築・デザイン学科

文芸学部一文芸学科（日本語・日本文学専修 / 英語・英語圏文学専修 / フランス語・フランス文学専修 / 劇芸術専修 / 美術史専修 / 文化専修 / 文芸メディア専修の各コース）

国際学部一国際学科

ビジネス学部一ビジネス学科

2. 募集人員、試験方法、認定単位数等の詳細は、「編入学試験要項」を参照してください。

ビジネス学部へ編入する場合は、2年次への編入となります。なお、事前に修得しておく授業科目がありますので、ご確認ください。

他大学へ編入学する場合

就職進路課が担当しています。推薦編入学受験可能な大学の試験情報については、希望者に **kyonet** でご案内します。推薦・一般とも入試時期は大学により異なります。

編入学に関する資料は、就職進路課の資料室で閲覧することが可能です。6月と10月には「編入学ガイダンス」を実施し、基本的な情報収集から筆記対策まで詳しい説明があります。

15. 履修に関するQ & A

Q：卒業要件単位について説明してください。

A： 卒業するために必要な最低の修得単位数をいいます。決められた合計単位数を修得するだけでなく、授業科目区分ごとに定められた必要単位を修得しなければなりません。
所属学科の卒業要件「卒業に必要な最低単位数」を参照してください。

Q：選択必修について説明してください。

A： 必ず履修し、単位を修得しなければならない必修科目に対し、指定された複数の科目から決められた単位数を修得する科目をいいます。
卒業に必要な単位以上に修得した分は選択科目単位としてカウントされます。

Q：履修登録科目を変更したいのですが。

A： 原則として、一度登録した科目を変更することはできません。履修登録は十分確かめたうえで手続きをしてください。

Q：2年次で1年次に設置されている科目を履修することができますか？

A： 自分の年次より高年次に設置されている科目を履修することはできません。一方、低年次に設置されている科目は履修することができますが、できるだけ設置されている年次で単位を修得するよう心がけてください。

Q：不合格になった科目を再度登録することはできますか？

A： 不合格になった科目（評価：D、X）は、翌年度以降に登録することができます。また、不合格になった科目が前期科目の場合は、指定期間内に、同年度の後期に追加して登録することもできます。ただし、合格した科目を再度登録することはできません。

Q：授業を欠席しなければならなくなった場合、どうすればいいでしょうか？

A： 本学では、授業欠席に対する特別な扱いはありませんが、やむを得ない理由で欠席しなければならないことが事前に分かっている場合は、授業担当者に連絡してください。また、病気等で急に欠席してしまった場合は、次の授業の際に授業担当者に申し出てください。
1週間以上続けて欠席する場合は、「欠席届」を出してください。期末試験の受験資格に抵触することもありますので、やむを得ない理由以外の欠席はしないよう注意してください。

Q：病気や、やむを得ない理由で試験に欠席するときはどうすればいいでしょうか？

A： かならず**試験開始前に教務課**に連絡をし、指示を受けてください。連絡先は学生手帳、**kyonet**でお知らせしています。

Q：教養教育科目を要件単位以上履修した場合はどうなりますか？

A： 余裕があれば履修するのはかまいませんが、卒業要件になるのは各学科のカリキュラム表に記載してある単位までです。

Q：他学科・他コース科目は制限単位以上履修することはできますか？

A： 他学科・他コースの科目のみならず、共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度、千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度に該当する科目について、生活科学科では12単位まで、文科では8単位（英語コースは6単位）まで、専門教育科目の選択科目として卒業要件に含めることができます。それ以上は、卒業要件には入りませんが、履修することができます。

Q：KWU 高大連携プログラムとは何ですか？

A： 本学への進学を検討している併設校の高校生が、入学前に本学の授業を受講できるプログラムのことです。

Ⅲ 伝達 他

学外からの学生の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切応じていません。大学からと偽って自宅や留守宅に住所・電話番号を問い合わせたり、学外に呼び出したりするケースもありますが、本学では、学生を学外に呼び出したり、プライバシーに関する内容を電話で連絡することは行なっていません。不審な電話には、決して応じないよう注意して下さい。

Web ページアドレス

ページ名称	URL
共立女子学園	https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

個人情報の取り扱いについて

学校法人共立女子学園（以下「本学園」と言います。）では「個人情報保護方針」を制定し、本学園ホームページで公開するとともに、学園全体で個人情報保護に取り組んでいます。共立女子大学および共立女子短期大学（以下「本学」と言います。）は、個人情報保護に関する法令ならびに「共立女子学園個人情報保護規程」を遵守し、本学が入学予定者、学生から取得する個人情報を以下の通りに取り扱います。

■ 個人情報の利用目的

取得した個人情報は、下記の目的のために適正に利用いたします。

- ・ 学籍管理、履修管理、成績管理、学費情報管理、国内外研修および留学等、学生の学修支援を行うため（成績、出席状況についての保証人への情報開示と保証人との連絡、履修・成績・進路相談を含む）
- ・ 他校との単位互換協定に基づく学生の相互派遣に関する業務のため
- ・ 学外実習（教育実習、介護等体験、臨地実習等）に関する業務のため
- ・ 学生生活相談、課外活動支援、奨学金管理、保健衛生管理等、学生生活支援を行うため
- ・ 進路指導、就職活動支援、進路就職情報管理等、進路就職支援を行うため
- ・ 学生への通知・連絡（掲示を含む。）のため
- ・ 学内施設・設備の利用管理、保安管理のため
- ・ 各種証明書および学生証・学位記発行のため
- ・ 奨学事業を行う団体、卒業生等で組織する団体、学生等の父母で組織する団体等、に必要情報を提供するため
- ・ 出身高等学校への学修状況、学生生活状況等の情報提供を行うため
- ・ 教育内容の広報または PR のため
- ・ 大学評価（自己点検評価・第三者評価・認証評価等）、各種統計調査のため
- ・ 教育、研究、FD 活動のため
- ・ その他、本学の管理・運営に関する業務に必要な事項を処理するため

上記に加え、本学卒業後、本学園からの情報提供、各種依頼のために利用いたします。

■ 個人情報の管理

個人情報は、法令および共立女子学園個人情報保護規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。

■ 同窓会（一般社団法人共立女子学園櫻友会）への提供

機関誌の発送、櫻友会主催の事業（行事・講習・催し物）に関する連絡、支部との連絡に利用します。

■ 本学園関連会社（株式会社ウイズ・ケイ）への提供

学園に関わる各種業務のために利用します。

■ 個人情報の提供を伴う業務委託

本学は、個人情報の取扱を含む業務の一部を個人情報の適切な取扱に関する契約を締結した上で、外部の事業者
に委託することがあります。

■ 個人情報の第三者提供

取得した個人情報は、上記以外には、原則として事前に本人の同意を得ることなく第三者に提供いたしません。

なお、個人情報保護に関する法律第23条2項にもとづき、利用目的の達成に必要な範囲で本法人が承認し、かつ本学ホームページ等を通じてその内容を公開した場合、個人情報を第三者に提供することがあります。ただし、同ホームページ上に掲載している第三者提供の停止手続をとった場合は提供しません。

共立女子短期大学学則および諸規程について

本学ホームページ <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/curriculum/regulations/> に掲載
していますのでご覧ください。

2021 履修ガイド
共立女子短期大学
(生活科学科・文科)

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

URL <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

学籍番号

氏名

kyoritsu